呉音から西洋古典語へ
― 第 1 部　印欧語文献としての弘法大師請来密教経典 ―※

秋　山　　学

1. 印欧語に向けて啓かれた漢字使用を目指して

筑波大学附属中央図書館の和装古書コーナーに，江戸時代の名僧・慈雲尊者飲光（1718 － 1804）による自筆本が 3 点所蔵されていることに関して，筆者は 2010 年秋に開催された同図書館の特別展示会で公にした．この 3 点の中には，本邦悉曇学のアーカイヴとも言うべき『梵学津梁』の第 5 部「略詮」中,「阿字」部に関する慈雲の直筆本も含まれている（チ 590 － 10）．全 1 千巻を成すとされたこの『梵学津梁』にあっては，その第 1 部「本詮」の冒頭に，弘法大師空海（774 － 835）が 804 年に入唐・806 年に帰朝した際に請来し，『御請来目録』に掲載した「梵字真言讃等四十二部四十四巻」が，そのままの順序で掲げられている（『長谷宝秀全集』第 4・5 巻に収録，種智院大学密教資料研究所編，1997 年，法蔵館）．

空海が請来した経典の類には，これら梵典に限らず，不空（705 － 774）の新訳による大量の密教儀軌も含まれる．密教は，身・口・意における大日如来との一体化を目指すため，これらの漢訳儀軌のうちにも，口業に関わる多数の真言・陀羅尼が盛り込まれている．それらの原語がサンスクリットであることは上掲の梵典と変わりなく，真言・陀羅尼だけが取り出されて上掲の「梵字真言讃」に収められている場合もあるが，密教儀軌の場合，それらの真言には漢字による音訳，すなわち当て字を用いての音写が行われるのが一般的である．

梵字によるにせよ，漢字音写によるにせよ，これらの密教経典における真言・陀羅尼は，基本的に空海以降，わが国に悉曇学という独特の分野を形成することになった．この悉曇学の大成者が，上述の江戸時代の真言律僧・慈雲である．すなわち空海から慈雲まで，ちょうど 1000 年にわたり，19 世紀前半における西洋でのインド学勃興に先んじて，わが国には梵字悉曇学が伝えられていたのである．空海以前，わが国で行われていた梵学に関する研究も見られるが（石村喜英「奈良時代における梵字梵文の伝来と学習」,『史正』第 9 号 1 － 20 頁,

1980 年)，その「梵学」の実態は，ほとんど伝説的なものにとどまる．

もっとも，空海に始まるこの本邦悉曇学は，19 世紀後半における明治維新とともに，寺院における継承のみに限られることになった．これはまず，明治期以降の政府が，政教分離という原則もあって，国立高等教育機関におけるインド学・仏教学の研究教育に関し，全面的に近代西洋に倣う方式を採用したことによる．したがって南条文雄（1849 − 1927)，高楠順次郎（1866 − 1945)，荻原雲来（1869 − 1937）といった仏教学者たちは，みな英独に留学して欧語による近代的サンスクリット学を修めている．江戸期までの悉曇学に関して彼らは，意識することはあるにしても，本格的にそこに立ち返ることは少なかった．その一因として，彼らがほぼ浄土・念仏系の出身であり，密教関係者ではなかったということも影響していよう．

9 世紀前半に日本に請来された密教経典は，こうして明治期以降，精確な印欧語文献の一つであるにも関わらず，欧米追随の教育方針とは無縁のものとして放置されてきた．しかしながら上述したように，これら密教儀軌・真言陀羅尼類は，本邦悉曇学の中心的素材を構成していた．明治期の政府が，英・米・独といった近代西欧の教育理念に盲従するのに対し，1000 年の歴史をもつ本邦悉曇学が扱ってきたものは，その盲従の対象を歴史的・根源的に規定する印欧祖語だったわけである．印欧語比較文法を修めた碩学たち，辻直四郎（1899 − 1979）や高津春繁（1907 − 1973）らが，日本の密教学史と悉曇学を踏まえた積極的な提言を行っていれば，わが国の教育方針は変わっていたかも知れない．

ともあれ，わが国近代以降におけるサンスクリットあるいは広く印欧語に関する研究・教育は，欧米式の方法が採用された結果，仏教・密教色の非常に薄いものとなって今日に至っている．それは，仏教サンスクリットが，ヴェーダ語や正則サンスクリットに比して歴史的に後代の産物であるということを勘案すれば，言語学的に有意味なことではある（仏教サンスクリットは “Hybrid Sanskrit” と呼ばれる．F. Edgerton (ed.), *Buddhist Hybrid Sanskrit Grammar and Dictionary,* 2 vols. , New Haven/London 1953 を参照)．また，明治期以降の政教分離という政治方針に適うあり方でもある．だが，わが国における歴史文化伝承が顧慮されていないこと，そしてそもそも，教育研究の方法が内省的に吟味されたものではなく，西欧盲従型であること等に，大きな問題を抱えていると思われる．筆者は，教育研究の面でも各文化圏固有のあり方が求められてよいという持論を抱いているが, これは典礼学的な発想に基づく（拙著『ハンガリー

のギリシア・カトリック教会―伝承と展望―』，創文社，2010 年を参照）．

本稿は，以上のような背景に基づき，近現代における印欧語比較文法学の知見を吸収しながら，本邦悉曇学の蓄積を十全に止揚することを目指す．結論を先取りして言うならば，印欧語族の文化に関わる研究，すなわち近代的学問の大半を占める営為に関して，宗教色を排除する方向で展開を見てきたこれまでのあり方ではなく，わが国固有の文化歴史伝承の積極的評価という面から，恐れることなく宗教的文化遺産を活用する方法を提唱したい，と考えるものである．

以上のような問題設定の上に，本稿では，まず前半・第 1 部において，空海の請来した密教儀軌を基幹とする「四度加行」テキストを対象に，その梵文真言部分を文法的に解析しながら，そこに現れる梵語動詞語基を取り出し，梵語と同様に印欧古典語の一角をなすギリシア語・ラテン語の対応語基を対記するという作業を進める（「四度加行」について，一般向きには吉田邦弘「密教秘密修道マニュアル」，『真言密教の本』184 － 216 頁，学研，1997 年）．西洋古典語のうち特にラテン語は，フランス語経由で英語に吸収され，英単語のうちにはラテン語起源に遡るものが，ゆうにその半数以上を占めると言われる．すなわち本稿における作業を通じて，空海に由来する密教儀軌テキストが，いかに現代の国際文化にまでそのスコープを及ぼしえているかが立証されよう．梵語語彙は，セム系文法体系における「動詞 3 根字」システムほどではないにせよ，かなりの部分が動詞語基に由来する．本稿ではサンスクリットよりもさらに印欧祖語に遡るヴェーダ語動詞をまず顧慮し，他に儀軌テキストのうちに，動詞以外の語素に遡源するものがあればこれを採録する，という方針で臨むことにする．

そして後半・第 2 部では，第 1 部において梵文解釈の際に取り出した梵語語基を，徹底して漢字一文字で表すことに努めるとともに，さらにこれを，仏教経典をめぐるわが国古代以来の音読方式である呉音で（漢音のみが該当する場合にはその音で）取り出し，五十音順に配列することで，漢字文を「音」のレベルにまで還元し，漢字呉音から梵語経由で西洋古典語にまで及ぶ知的観想活動を提示したいと考える．方向性の上でこのあり方と同じく，国語五十音字から梵語へと遡及する密教解釈は，先述の慈雲が『五十字門説』で展開しており，彼の直筆註釈本は筑波大学に所蔵される（チ 590 － 1）．この作品は「唱阿字時 ...」「唱伊字時 ...」と記され，文字ではなくやはり「音」の次元への昇華を目指したものである．文字には視覚が介在するため，さらに内在化させて「音」にま

で蒸留するプロセスが不可欠である．本稿では，経学文献とともに早くから本邦に伝わった仏教漢文に根ざし，漢字音を，梵語を経てさらに西洋語にまで及ぶ国際的な「扉」と意義づけることによって，わが国が現代の文化的グローバリゼーションの波に接する際, 固有の文化伝承に基づく内発的意義づけを得て，自律的に対処することができるよう，一つの途を提示してみたいと思うものである．

2. 密教儀軌をめぐって

さて，冒頭に述べた空海による「梵字真言讃等四十二部四十四巻」に関してであるが，まずその冒頭を成すのは『梵字胎蔵大儀軌』（上・下；通し番号 1・2 に該当）である．さっそくであるが，ちなみに本稿では，たとえばこの「胎蔵（法)」という語彙を考えてみた場合，これは胎 garbha 蔵 kośa 法 dharma というように，3 つの梵語語彙の漢訳であり，このうち garbha は動詞語根（√）grah「把」に，dharma は√dhṛ「持」にそれぞれ遡源させる一方，動詞語根に還元し難い kośa「蔵」については，本稿ではこれを「語基」として別個に立てる，という仕方で解析を進める．そしてさらに関連するギリシア語・ラテン語等の語彙を附記し，最終的に，把「は」および持「じ」から検索しうるインデックスを第 2 部に提示する, といった方法を採る．この際√grah に「把」を，√dhṛ に「持」を充てるのは，他の関連印欧語をも顧慮した上で，筆者が試みに提示する見解であり，今後絶えざるブラッシュ･アップを要する部分である．

この『胎蔵大儀軌』は，「大正新脩大蔵経」No.848 に収められる『大日経』すなわち『大毘盧遮那成仏神変加持経』巻 1 ～ 6 に挙げられている真言を，経典の順番のままに取り出したものである（前掲『長谷宝秀全集』第 5 巻 410 － 411 頁所収，野口圭也「解説」参照)．『大日経』自体は，後述するように，空海が大和樫原の久米寺で参観していたものであり，彼の入唐以前にわが国に伝わっていた．しかし，これが密教修法として受容されるのは，空海が唐よりこの『胎蔵大儀軌』の梵本テキストを請来して以降のこととなる．次に 3『梵字胎蔵曼荼羅諸尊梵名』は，胎蔵曼荼羅の諸尊 358 尊の尊名を，大日如来から始めてすべて梵字で著したものである（『梵字貴重資料集成』解説篇 190 頁，東京美術，1980 年)．もとより密教修法は曼荼羅の観法とあいまって展開されるため，本件は上掲の『胎蔵大儀軌』と併せ考えてよいだろう．そして 4・5 に該当するのは『梵字金剛頂蓮華部大儀軌』（上・下）である．これは，多少

の異同はあるものの，不空訳による『蓮華部心念誦儀軌』の梵字真言を別出したものと思われる（宮坂宥勝「弘法大師空海請来の梵字真言について」，『インド学密教学論考』91 − 119 頁，1995 年，法蔵館）．以上から，胎蔵および金剛界の密教儀軌次第が, 梵字による真言部テキストを含め, 実質的に空海によって請来されたということが明らかとなる．

空海は，延暦年間（782 − 805），大和樫原の久米寺東塔において『大日経』を感得し，桓武天皇（在位 781 − 806）の勅を受けて 804 年に入唐，806 年に帰朝すると，807 年 11 月久米寺に戻って『大日経』の講讃を行ったと伝えられる．この間，唐に滞在して恵果（746 − 805）から 805 年 6 月上旬に胎蔵，同 7 月上旬に金剛界の灌頂を授かるが，それに伴い，各々に際して引き続き胎蔵の梵字儀軌，金剛界の梵字梵讃を学んだということが『御請来目録』に記されている．これに先立ち，『大日経』の漢訳者善無畏（637 − 735）は，久米寺の寺伝によれば 718 年にわが国に来朝, 2 年間にわたって久米寺に寄留し，10 メートルを越える大塔を造り，3 粒の仏舎利ならびに『大日経』を塔中に収めたとされる．空海が入唐を決意したのは, この『大日経』との出会いであった．

ところで，後の東密小野流では十八道・金剛界・胎蔵の順に加行を行うが，空海が授けられた灌頂は胎蔵・金剛界の順であった．この灌頂が，現行の伝法灌頂に合致するのかどうかという点に関しては諸説が伝わるが，その順序だけに関して言うならば，後の東密広沢流のものに一致する．また胎・金に関してのみ考えれば，台密における加行の順にも一致する（台密ではこの両部に蘇悉地を加え，蘇悉地は十八道にも比せられるが，これに関しては稿を別にしての検討を要する）．この点は，台密が円仁（794 − 864）・円珍（814 − 891）が入唐した当時の中国密教の実情をむしろよく伝えているとされるのと合致しよう．こうして，空海の『御請来目録』において胎蔵儀軌が先に挙がるのは，空海自身の入唐が『大日経』との出会いを機縁とすることと符合し，また実際に空海自身が胎蔵灌頂を先に受け，梵典学習も胎蔵を先に行っていることを反映しているものであろう（竹内信夫『空海入門』119 頁参照，ちくま新書，1997 年）．

現行の真言密教による四度加行の次第は，これら両部の前に十八道を加え，その後に護摩の次第を併せて構成されている．そのうち，十八道の基本テキストである『無量寿如来修観行供養儀軌』および『観自在菩薩如意輪念誦儀軌』，同じく護摩の『金剛頂瑜伽護摩儀軌』（以上すべて不空による新訳），さらに，

別途行われる伝法灌頂のための本軌『金剛頂瑜伽中略出念誦経』（金剛智による旧訳）はすべて空海による請来であり，実際空海も，これら十八道・胎蔵・金剛界・護摩・灌頂のそれぞれについて，自らいくつかの次第を執筆している．これら四度加行と灌頂の次第を通覧することで，空海のもたらした密教文献の文化的意義が全体として明らかになるだろう．

以上のような推測に基づき，本稿では十八道・胎蔵・金剛界・護摩の四度加行および伝法灌頂に関して，そこで用いられる真言の全般を顧慮し，上述した作業を展開することにする．次第については，栂尾祥雲著『秘密事相の研究』（『栂尾祥雲全集』第 2 巻，高野山大学密教文化研究所編，1935 年初版，1982 年復刊 ）が最も詳細であると判断し，上述した胎金の順序に関して，同書が金・胎としているのを本稿では胎・金の順序に改めるという点を除けば，解説と理解を含め，その掲載テキストに全面的に依ることにする．ただわずかの箇所に関してミスプリントが認められるため，真言宗智山派宗務庁編『智山教化資料　第 4 集増補改訂版　常用陀羅尼と諸真言』（真言宗智山派宗務庁，2000 年）を参照したほか，逆引き辞典として V. Sh. Apte(ed.), *The Student's English-Sanskrit Dictionary,* Pune 1920, Dehli 1960[repr.] を用いた．また曼荼羅との関連については，梵語表示が尽くされている越智淳仁『図説・マンダラの基礎知識―密教宇宙の構造と儀礼―』（大法輪閣，2005 年）を参照した．さらに全般にわたり，長谷宝秀編『密教大辞典』によって各々の尊格についての理解を得るとともに，荻原雲来編・辻直四郎監修『漢訳対照　梵和大辞典』（鈴木学術財団刊，1940 － 74 年；講談社，1986 年再版）を参照した．

3. 漢文の音読

さて，奈良・飛鳥時代，たとえば聖徳太子（574 － 622）は『妙法蓮華経』に関して，第 26 巻および第 28 巻の陀羅尼部分をも含めた注疏『法華義疏』を遺してはいるものの，『妙法蓮華経』が漢字音写で済ませているその陀羅尼には，他に竺法護（239 － 316）の手になる『正法華経』の漢文意訳があり，陀羅尼そのものの意味理解を迫られることはなかったと言ってよい．また，たとえば『般若心経』の末尾に見られる真言部分なども，短文でもあり，事情は同様であったと考えられよう．空海以前に伝来していた漢訳仏典に関しては以上のような状況であるのに対し，平安期になってわが国にもその影響を及ぼした新たな密教儀礼においては，真言・陀羅尼の文面そのものが，行為をともな

う正確な理解と受容を迫った．したがって，入唐を経て梵本類を請来した空海が，たとえ梵文の語学的原典解釈に関わることなく，真言の意味について「別途」教授されたとするにしても，まさしくそのプロセスにおいて，彼以降，梵文に関する正当な「理解」が伝承されるようになった，と述べることは可能であろう．

ところで，わが国における漢文の素読の際には，ふつう音読をしない習慣があり，直ちに返り点を付した訓読に転ずる習慣が一般的である．したがって漢文の音読という行為は，ほとんど仏教漢文の場合に限られると思われる．ただ，六国史のひとつである『日本後記』巻第一・延暦 11（792）年の閏 11 月のくだりには，

「勅，明経之徒，不事習音，発声・誦読，既致訛謬，熟習漢音」

と記されており，音読を習慣づけるとともに，それを漢音で行うようにとの勅令が発せられている．さらに，翌延暦 12（793）年 4 月には

「制，自今以後，年分度者，非習漢音，勿令得度」

とあって，上記の勅令が，得度する出家者にも課せられたことがわかる．もっとも仏典の音読に際しては，現在にいたるまで，呉音による読誦が一般的であり，漢音での仏典読誦は『理趣経』などの場合，あるいは天台宗における一部のケースなどに限られよう．『般若心経』をはじめ，われわれに親しい仏典の読み方は，総じて呉音によるものであり，これは 6 世紀から 8 世紀にかけて，中国南部から海路，わが国に仏教と仏典が請来されたために定着した現象であるとされる．そして上掲のような桓武天皇による勅にもかかわらず，漢文を漢音による読誦で統一しようとする朝廷の方針は，少なくとも仏典の読誦の際には一貫しなかった．われわれが漢字音として親しんでいるものの多くには，呉音が色濃く残っているが，その理由はこうして，わが国の古代にまで遡って求められる．したがって，仏典を基礎とする漢文音読を想定する場合には，呉音による音読が標準となるだろう．上記の桓武天皇による勅令が，遣唐使などに関わる実際面を配慮してのものであったということは，容易に察せられよう．

ちなみに，このような漢文の音読法を想定すると，頻繁に登場する漢文特有の「助字」に関して，訓読の際には読まないという選択肢がありえたのに対し，必ず音をあてがう必要が生じる．助字の問題は本稿と直接関わるものではなく，また助字に対して呉音が正確に当てられる場合はそれほど多くないが，本稿第 2 部に載せる「音引き漢字索引」には，漢文一般を音読する場合を想定して，『新字源』をもとに助字の音を採録してある．

以上のような事情から，漢訳仏典の読み方として，真言・陀羅尼部分は梵音で（漢字音写には頼らず，アルファベット化されたものを）音読し，それ以外の(地の)漢文は呉音で音読する，という状況が想定されよう．たとえば先の『妙法蓮華経』にしても，音写された陀羅尼部分を含むが，この部分については近代以降の学問成果を参観してアルファベット化された梵文を読み，それ以外の部分は呉音で読む，ということになる．これは，たとえば聖徳太子が行った事績の，(「再現」ではなく)「実現」と言えるのではないだろうか．そして，天台宗の依経となるこの『妙法蓮華経』には，呉音読みを基調とする全編録音テープが現在なお発売されている(片岡義道演唱『基本読誦用テープ　妙法蓮華経』，天台真盛宗法儀研修所発行，1987 年)．空海も『法華経開題』を遺しているところを見れば，空海が帰朝以降『法華経』を読んだあり方も，桓武天皇の勅にしたがった漢音読みではなく，おそらくこのような呉音読みではなかったかと思われる．本稿の第 2 部「呉音読み漢字索引」には，梵語語根に当てられる漢字以外にかなりの数の漢字字母が採録されているが，それらは主に，『般若心経』あるいは『妙法蓮華経』に載る注意すべき読みの漢字を拾ったものであり，必ずしも体系的なものではない．本稿は，（仏教）漢文の呉音音読法を提唱するものであるが，その目的とするところは，呉音による漢字想起を通じての，西洋古典を含む印欧語世界への知的啓きにある．

本稿第 2 部での漢字使用に関しては，いわゆる「四声」は顧慮していない．われわれ日本人が漢字を用いる際，ふつうその四声まで意識することはありえないからである．仮名遣いは新仮名遣いに拠る．また当該の漢字に漢音しか当てられない場合，その音を載せてある．もとより，本稿は漢字検索システムを完備した完璧な漢字辞典を目指したものではない．いきなり呉音の読み方で検索することになるが，そこまでの道程は，既存の漢和辞典に負わざるを得ない．おそらく普遍的な漢字検索システムとしては，総画索引に拠らざるを得ず，実際にそれに拠ったものとして，たとえば慈雲シューレの手になる筑波大学中央図書館所蔵（チ 590-18）『唐梵雑名千鬘画引』がある．しかしこれでは，システムとして完全であるにしても，実用面では至極不便である．また本稿の目指すものは，先に述べたように，究極的に「音」の世界での観想活動に向かうものである．

したがって本稿第 2 部は，奈良・飛鳥時代以来本邦に普及した「常用経典」の類，すなわち『般若心経』あるいは『妙法蓮華経』等に現れる漢字類に，平安期のわが国を席巻した密教儀礼経典の，真言梵語テキスト部分に関する試み

の拙訳漢字を加えたものを索引の対象としている．後者の漢文部分の文字を加えないのは，上掲の桓武天皇による勅令以降にわが国に請来されたものが，その大半だからでもある．

以下本稿の第 1 部は, 空海そしてその門徒により整備を見た, 真言密教の「四度加行」と灌頂の次第をテキストとしてこれを翻刻し，そこで唱えられる真言を語源学的に分析し，かつギリシア語・ラテン語への関連を明らかにすることによって，わが国に伝わる密教儀礼のテキストが，いかなる言語的・文化的展開の可能性を秘めているかを提示しようとする試みである．テキストの中で諸尊の種字に関しては，その意味解釈を省略する．動詞語根については「語根」として√のマークを付し，動詞以外の語基には，語基として扱う旨を記した．また a の長音に関して連声を表す â 表記は用いず，一括して ā 表記にしてある（栂尾著書に従っている）．語根・語基についての解説は，前出のものは繰り返していない箇所もある一方で, 再筆した箇所もある. また後半に進むにしたがって，語根等の指示には略記を用いている．

4. 十八道行法

「四度加行」は，まず両部の行法にとって基礎となる「十八道」より始まる．以下その次第にしたがい，用いられる真言の解析を行う．行法の大枠を見出しとして掲げたのち，真言・邦訳（栂尾祥雲師による），そして動詞語根を中心とした析出，の順に掲載する．行法の意味について記す仏教・密教学の論文ではないため，簡潔を旨とし，各語根の解説・注記に関しても簡略化して，その意味・解説等に関しては，これをすべて第 2 部で行うことにする．

以下に理解されるように, 十八道は後に続く行法の基礎であるということが, 真言の修得という点でも当てはまる．

1 荘厳行者法

1 上堂

2 普礼

Oṃ sarva-tathāgata-pāda-vandanaṃ karomi.

一切如来の御足を礼することを，我なす．

・Oṃ（「唵」以下省略）＜√av；sarva「一切の」；tathā「その如くに」；gata＜√gā の過受分. ;pāda「脚」は pada の強語幹形で語基扱い；vandana「敬

礼」＜√vand, -ana は第 1 次接尾辞による造語名詞．；karomi は√kṛ の 1 人称単数形．

3 著座　4 傳供　5 普礼　6 塗香　7 三密観

8 ①浄三業

Oṃ svabhāva-śuddha sarva-dharma svabhāva-śuddho ’haṃ.

自性清浄なる一切諸法よ，我は自性清浄なり．

・svabhāva「自性」＜√sva ＋ √bhū；śuddha「清浄」＜√śudh；sarva「一切」は語基扱い．；dharma「法」＜√dhṛ；aham「我」も語基扱い．

9 ②仏部三昧耶【身】

Oṃ tathāgatodbhavāya svāhā.　如来を発生することのために．

・udbhava「発生」, ud- は前綴；bhavāya は bhava ＜ bhū（ここでは与格形）．

10 ③蓮華部三昧耶【口】

Oṃ padmodbhāvāya svāhā.　蓮華を発生することのために．

・padma「蓮華」は語基扱い．

11 ④金剛部三昧耶【意】

Oṃ vajrodbhāvāya svāhā.　金剛を発生することのために．

・vajra「金剛」（以下省略）は, 語基 ugra あるいは語基 ojas より派生させる．

12 ⑤被甲護身

Oṃ vajrāgni-pradīptāya svāhā. 金剛火の極めて威燿あることのために．

・agni「火」は語基扱い．；pra- は前綴．；dīptāya は√dīp の過去受動分詞（以下「過受分」）dīpta の与格．

2 普賢行願法

13 加持香水【灑浄】

Oṃ amṛte hūṃ phaṭ.　甘露軍荼利よ．

・a は否定の前分（印欧語に広く共通）；mṛte は√mṛ の過去分詞呼格形．

14 加持供物

Oṃ padākṛṣya-vajra hūm. 足鉤金剛よ．

・pada「足」は前出．；ā- は前綴，梵漢和にしたがい，ākarṣati と取り，√kṛṣ に帰着させる．これは降三世の呪とされ，通例鉤には aṅkuśa が当てられる．ya は Taddhita（第二次）接尾辞ととる．

15 覧字観

16 浄地【浄身】

Rajo ’pagatāḥ sarva-dharmāḥ.　垢穢を遠離せる一切諸法よ.

・rajas「塵」; apa- は前綴. ; gata ＜√gam の過受分 ; -āḥ は複数主格語尾. ; dharma「法」＜√dhṛ.

17 観仏

Khaṃ vajra-dhāto.（虚空の聖語），金剛の世界よ.

・dhāto は dhātu「界」の呼格＜√dhā.

18 金剛起

Oṃ vajra tiṣṭha hūṃ.（聖語），金剛よ，起てよ.

・tiṣṭha は√ṣṭhā の重字を伴う命令法.

19 普礼　20 啓白事由　21 神分祈願　22 五悔

23 発菩提心

Oṃ bodhi-cittam utpādayāmi.　菩提心をわれ発起す.

・bodhi「覚」は√budh からそれに -i（第 1 次接尾辞）を加えた造語名詞. ; citta「心」（ここでは対格形）は√cit の過受分からの名詞化. ; ut- ＜ ud- は前綴. ; pādayāmi は√pad の使役活用・1 人称単数形（語根母音の延長）. なお使役活用に際して漢訳はしばしば「令」の文字を用いる.

24 三昧耶戒

Oṃ samayas tvaṃ.　汝は三昧耶なり.

・samaya ＜ sa（語基扱い）＋ maya（＜√mā2）は密教の「本誓」を表す. ; tvaṃ は 2 人称単数代名詞主格（語基扱い）.

25 発願　26 五大願

27 普供養三力

Oṃ amogha-pūja maṇi-padma-vajre tathāgata-vilokite samanta-prasara hūṃ.
不空の供養よ，宝珠と蓮華と金剛との徳ある如来の観見において，普く舒遍するものよ.

・a は否定の接頭辞. ; mogha「空」は√muh からの造語名詞. ; pūja「供養」は pūjā の呼格＜√pūj ; maṇi「珠」は語基扱い ; padma は前出 ; vajre は（次出の vilokite も）地格. ; vilokita「観察」は√lok の過受分. vi- は前綴; samanta「普遍」も語基扱い. ; prasara「流散」は前綴 pra- と sara「流」（＜√sṛ）の合成語.

3 結界法

28 大金剛輪

Namas try-adhvikānāṃ tathāgatānām aṃ viraji viraji mahā-cakra vajri sata sata sārate sārate trāyi trāyi vidhamani sambhañjani tramati-siddha-agrya trāṃ svāhā.

帰命す，三世の諸々の如来に．塵垢を離れたるものよ，大輪よ，金剛あるものよ，等しきものよ，等しきものよ，堅固性よ，堅固性よ，救世者よ，救世者よ, 排除するものよ, 破壊するものよ, 三恵の成就の勝上なるものよ.

・Namas「帰命」＜√nam；adhvika「世」は adhva「路」に第 2 次接尾辞 -ika を附したもの（ここでは複数属格形）.；viraji は vi-（前綴）に rajas「塵」を加えた尊（呼格）.；mahā「大」＜√mah；cakra「車輪」「走るもの」は √car の強意に帰着.；sata は sat, すなわち √as の現在能動分詞 sat より派生すると見た.；sāratā「堅固性」は sāra「堅固」に第 2 次派生語形成接尾辞 -tā を附したもの（呼格）.；trāyi は trātṛ「救世者」（√tṝ）の呼格と解した.；vidhamana「散壊」＜√dham；sambhañjana ＜ √bhañj，sam- は前綴.；mati「慧」＜√man；siddha「成就」＜√sidh；agrya ＜語基 agra.

29 ⑥金剛橛【ｹﾂ；地結；四方に杭】

Oṃ kīli kīli vajra-vajri bhūr bandha bandha hūṃ phaṭ.

橛を有し，橛を有する金剛の上にも金剛の性ある大地よ，結縛せよ，結縛せよ.

・kīla「橛」＜√kīl；bhūr「大地」＜√bhū；bandha は √bandh の命令法 2 人称単数形（ここでは第 1 類活用）.

30 ⑦金剛墻【ｼｮｳ；四方結；垣根】

Oṃ sāra-sāra vajra-prakāra hūṃ phaṭ.

堅固に堅固なる金剛の墻よ.

・prakāra「墻」は，前綴 pra- と √kṛ に帰着する.

4 荘厳道場法

31 ⑧道場観【大地を浄土に】

Oṃ bhūḥ khaṃ.　大地よ.

32 ⑨大虚空蔵【虚空より楼閣等を流出】

Oṃ gagana-sambhava-vajra hoḥ　虚空より生ぜる金剛よ.

・gagana「大気」は語基扱い.；sambhava「生ぜるもの」，sam- は前綴，bhava ＜ √bhū.

33 小金剛輪【四摂真言：鉤・索・鎖・鈴】

Oṃ vajra-cakra hūṃ jaḥ hūṃ baṃ hoḥ.
金剛輪よ【以下，鉤・索・鎖・鈴の聖語】.

5 勧請法

34 ⑩宝（送）車輅【ホウシャロ；迎えの出発】

Oṃ turu turu hūṃ.　運行せよ，運行せよ.

・turu は tara より派生したと見る（√tṛ の命令法）.

35 ⑪請車輅【ショウシャロ；空中にお迎え】

Namas try-adhvikānāṃ tathāgatānām oṃ vajrāgny-ākarṣāya svāhā.
帰命す，三世の諸々の如来に，金剛の智火を請召することのために.

・ākarṣa「請召」（ここでは与格形）＜ ā-√kṛṣ.　ā は前綴.

36 ⑫召請【チョウショウ；仏・蓮華・金剛】

Namaḥ samanta-buddhānāṃ āḥ sarvatra-apratihata-tathāgata-aṅkuśa bodhi-carya-paripūraka svāhā.
帰命す，普き諸佛に．一切処に無碍なる如来を鉤召することよ，菩提の行を円満せしむる者よ.

・buddha「仏」（ここでは複数属格形）＜√budh，第 1 次接尾辞 -a を伴い形容詞化．；-tra も第 1 次接尾辞で場所を表す．；apratihata「無碍」prati- は前綴．hata ＜ han.；aṅkuśa「鉤」＜√aṅk；carya ＜√car；paripūraka「円満」＜√pṛ の使役活用．pari- は前綴.

37 四明

Jaḥ hūṃ baṃ hoḥ　【鉤・索・鎖・鈴の聖語】.

38 拍掌

Oṃ vajra-tala-tuṣya hoḥ.　金剛掌の喜悦よ.

・tala「掌」は語基扱い．；tuṣya「喜悦」＜√tuṣ.

6 結護法

39 ⑬馬頭明王【部主結界】

Oṃ amṛtodbhava hūṃ phaṭ.　甘露より発生するものよ.

・amṛta「甘露」と udbhava より，連声に従っている.

40 ⑭金剛網【虚空網】

Oṃ visphurād rakṣa vajra-pañjara hūṃ phaṭ.
拡げ張ることにより擁護せよ，金剛網よ.

・vi- は前綴．sphurād「拡張」は sphura の従格（外連声）＜√sphur；＜√rakṣ（命令法）；pañjara「網」＜√paj

41 ⑮金剛炎【火院】

Oṃ asamāgne hūṃ phaṭ.　無等比の火よ．

・a-；語基 sama；語基 agni.

42 大三昧耶

Oṃ śṛṅkhale mahā-samayaṃ svāhā.　鏁よ，大本誓を．

・śṛṅkhala「鎖」は語基扱い．

7 供養法

43 ⑯閼伽香水【沐浴洗足】

Oṃ vajrodaka ṭhaḥ hūṃ.　金剛水よ．

・udaka「水」＜√ud.

44 ⑰蓮華座【座に請ず】

Oṃ kamala svāhā.　蓮華座よ．

・kamala「蓮華座」＜√kam.

45 振鈴

Oṃ vajra-sattva aḥ.　金剛薩埵よ．

・sattva「薩埵」（「存在性」「有情」「衆生」）＜ sat ＜√as の現在分詞＋中性名詞形成語尾.

46 ⑱五供養【普供養】（塗香ｽﾞｺｳ　花鬘ｹﾏﾝ　焼香　飲食ｵﾝｼﾞｷ　燈明）

Namaḥ samanta-buddhānāṃ viśuddha-gandhodbhavāya svāhā.

Namaḥ samanta-buddhānāṃ mahā-maitrya-abhyudgate svāhā.

Namaḥ samanta-buddhānāṃ dharma-dhātv-anugate svāhā.

Namaḥ samanta-buddhānāṃ arara-karara-baliṃ dadāmi baliṃ dade mahā-bali svāhā.

Namaḥ samanta-buddhānāṃ tathāgata-arci-sphuraṇa-avabhāsana gagana-udārya svāhā.

帰命す，尊き諸佛に．清浄なる塗香を発生することのために．／大慈より生じたるものよ．／法界に遍至するものよ．／アララ・カララの飲食をわれ与ふ．飲食をわれ与ふ．大飲食よ．／如来の灯明の普遍する光明よ，虚空のごとくに偉大なるものよ．

・samanta は 27 参照．；śuddha は 8 参照．；gandha「香」は語基扱い．；

udbhavāya は 9 参照. ; mahā は 28 参照. ; maitrya「慈」< maitra は語基扱い. ; abhyudgatā「現出」(ここでは呼格) < abhi-, ud- は前綴, + √gā の過受分. ; dharma は 8 参照, ; dhātv は 17 参照 (ここでは連声), ; anugate < anu- は前綴, + √gā の過受分. ; arara「覆」は語基扱い. ; karara は供物の一種か ? ; bali「供物」< √bhṛ (ここでは対格) ; dadāmi < √dā の為他相 1 人称単数形. ; dade < √dā の為自相 1 人称単数形. ; arci「炎」< √arc. ; sphuraṇa「瞬」< √sphur ; avabhāsana「照明」, ava- は前綴, + < bhās ; gagana は 32 参照. ; udāra「偉大」, -ya は第 2 次接尾辞ととった.

47 事供 (塗香ｽﾞｺｳ　花鬘ｹﾏﾝ　焼香　飲食ｵﾝｼﾞｷ　燈明)

48 四智讃

Oṃ vajra-sattva-saṃgrahād vajra-ratnam anuttaraṃ vajra-dharma-gāyanaiḥ vajra-karma-karo bhava.

金剛薩埵の摂受によるがゆえに. 金剛宝は無上なり. 金剛法の歌詠によりて. 金剛の事業をなすものとならんことを.

・saṃgrahād「摂受」< √grah, 40 参照. ; ratna「宝」< √rā3, (中性名詞) ; anuttara「無上」, an- は否定の接頭辞, uttara は比較級語尾の付されたもの. 前綴 ud- に由来する. ; gāyanaiḥ「歌詠」< gā4, 第 2 次接尾辞による造語名詞 (ここでは複数具格). ; karma「事業」< √kṛ5 (名詞化) ; kara「為者」< √kṛ5 ; bhava < √bhū (2 人称単数命令法).

49 本尊讃

Kamala-mukha kamala-locana kamala-āsana kamala-hasta kamala-ābhā-muni kamala-kamala-sambhava sakala-mala-kṣālana namo 'stu te.

蓮華のごとき面容あるものよ, 蓮華のごとき眼あるものよ, 蓮華の座あるものよ, 蓮華の手あるものよ, 蓮華の光ある聖者よ, 蓮華中の蓮華より生ぜるものよ, すべての垢を洗浄するものよ. 汝に帰命あらしめよ.

・Kamala は 44 参照. ; mukha「面」は語基扱い. ; locana「眼」< √loc, ; āsana「座」< √ās (第 1 次接尾辞による造語名詞) ; hasta「手」は語基扱い. ; ābhā「光」< ā は前綴, + √bhā ; muni「聖」は語基扱い. ; sakala「すべて」は語基扱い. ; mala「垢」も語基扱い. ; kṣālana「洗浄」< kṣal ; astu は √as の 3 人称命令法. ; te は 2 人称代名詞の附帯辞与格形.

50 広大摩尼供養【普供養】・三力

51 禮佛

8 念誦法

52 入我我入観

53 本尊三種印言【根本・心秘密・心中心】

根本印言

Namo ratna-trayāya nama ārya-avalokiteśvarāya bodhisattvāya mahā-sattvāya mahākāruṇikāya tad-yathā oṃ cakra-vartti cintāmaṇi mahā-padme ru ru tiṣṭha jvala-ākarṣāya hūṃ phaṭ svāhā.

三宝に帰命す．聖観自在菩薩摩訶薩の大悲者に帰命す．咒に曰く．法輪を転ずるものよ．如意宝珠を持するものよ．

大蓮華の徳あるものよ．．．起てよ．光明をもって摂取することのために．

・traya「3 重の」（ここは与格形）；ārya「貴き」＜ ā ＋ √ṛ；avalokiteśvara「観自在」, ava- は前綴, lokita「観」＜ √lok, īśvara「自在」＜ īś；bodhisattva「菩薩」は 23 および 45 参照．；kāruṇikāya「悲者」＜ karuṇa「悲」（語基扱い）＋第 2 次接尾辞．；tad「其」は代名詞，複合語形成綴 tat で語基として取り出す．；cakra は 28 参照．；varttī「転者」（ここでは呼格）＜ √vṛt；cintā「思惟」＜ √cint；maṇi は 27 参照．；jvala「光明」＜ √jval；ākarṣa は 35 を参照．

心秘密印言 Oṃ padme cintāmaṇi-jvala hūṃ.　蓮上における如意宝珠の光明よ．

・padme は padma の地格．

心中心印言 Oṃ varada-padme hūṃ.　勝願を与ふる蓮華よ．

・varada「勝願を与える者」＜ √vṛ9.

54 正念誦

Oṃ raṃ svāhā.

Oṃ vairocana-māla svāhā.　遍照の珠鬘よ．

・vairocana「遍照」＜ vi-rocana, ＜ √ruc；mālā「珠鬘」は māla で語基扱い．

Oṃ vajra-guhya-jāpa-samaye.　金剛秘密念誦の境地において．

・guhya「秘密」＜ √guh；jāpa「念誦」＜ √jap；samaya は 24 を参照（ここでは地格）．

55 本尊三種印言　56 字輪観　57 本尊三種印言　58 散念誦

9 後供方便法

59 五供養印言　60 事供　61 閼伽　62 後鈴　63 讃　64 普供養三力

65 禮佛　66 廻向　67 五悔至心廻向　68 解界

69 発遣【mokṣa】 Oṃ buddha-sattva muḥ. Oṃ vajra-sattva muḥ. Oṃ padma-sattva muḥ.　佛部・金剛部・蓮華部の薩埵よ.

・なお発遣の語は mokṣa「解放」に由来し，これは√muc より帰着する.

70 三部三昧耶　71 被甲護身　72 普礼　73 出道場　74 印佛読経等

なお十八道の次第は，野澤二流で若干そのテキストを異にする．廣澤流は，空海撰として伝わる『十八道念誦次第』を用いるが，これは本稿第 2 節にも挙げた空海請来の「無量寿如来修観行供養儀軌」（大正 930）等に基づいて編まれたものである．併せて挙げた「観自在菩薩如意輪念誦儀軌」（大正 1085）は，その要文が同じく空海撰『十八契印』に採られている．栂尾師は小野流に随い，同流で広く行われている元杲（914 − 995）の「聖如意輪観自在菩薩念誦次第」のテキストを掲げておられる．本稿はこれに従っている．

5. 胎蔵部行法

胎蔵と金剛界の順序に関しては，野澤により異なるが，本稿冒頭に記したように，空海の請来目録に挙がる梵本の順序が胎･金の順になっていることから，これに従って胎蔵・金剛界の順を採ることにする．なおこれは，空海が 806 年に帰朝したのち，神護寺において行った灌頂の式の順序と一致することになる．以下十八道行法を参照する際には「十八 8」などと表示する．

1 上堂行願分

1 上堂観　2 至道場門観　3 開道場門観　4 壇前普礼　5 著座普礼　6 塗香
7 三密観　8 浄三業　9 仏部三昧耶【身】
10 蓮華部三昧耶【口】　11 金剛部三昧耶【意】　12 被甲護身　13 加持香水【灑浄】　14 加持供物　15 観佛　16 金剛起
17 普礼　18 表白　19 神分　　以上既述
20 九方便

1 】入佛三昧耶

Namaḥ samanta-buddhānāṃ asame trisame samaye svāhā.

帰命す，普き諸佛に．等比すべきものなき，三平等の三昧耶よ.

・asame ＜ a- ＋語基 sama；tri「三」語基扱い.

2 】法界生

Namaḥ samanta-buddhānāṃ dharma-dhātu-svabhāvako ’haṃ.
帰命す，普き諸佛に．法界の自性は我なり．
・svabhāva に関しては十八 8 参照．-ka は第 2 次接尾辞．；aham は人称代名詞 1 人称単数主格形（語基扱い）．

3】作礼方便

Oṃ namaḥ sarva-tathāgata-kāya-vāk-citta-vajra-pāda-vandanaṃ karomi.
帰命す，一切如来の身と語と意との金剛をもって足を礼敬することを我なすべし．
・kāya「身」は語基扱い．；vāk「語」は複合語の先綴の場合で，vāc として取り出す．＜√vac.

4】出罪方便

Oṃ sarva-pāpa-sphoṭa-dahana-vajrāya svāhā.
一切の罪を摧破し焚焼する金剛のために．
・pāpa「罪」は語基扱い．；sphoṭa「摧破」＜√sphuṭ；dahana「焚焼」＜√dah；

5】帰依方便

Oṃ sarva-buddha-bodhi-sattvaṃ śaranaṃ gacchāmi vajra-dharma hrīḥ.
一切の佛菩薩の帰依処に我帰依すべし．金剛の法よ．
・śarana「帰依処」＜√śri；gacchāmi ＜√gam（1 人称単数形）

6】施身方便

Oṃ sarva-tathāgata-pūja-pravartanāya ātmanaṃ niryātayāmi sarva-tathāgatāś ca adhitiṣṭhantāṃ sarva-tathāgata-jñānaṃ me āveśatu.
一切如来に供養を展開するために，己身を我奉献す．一切如来よ，願わくは加持せよ．一切如来の智を我ために編入せよ．
・pūja は十八 27 参照．；pravartanāya「展開」は前綴 pra-，vartana ＜√vṛt；ātman「己」は語基扱い（ここでは対格）．；niryātayāmi「奉献す」＜ nis- は前綴，＜√yā の使役活用 1 人称単数形．；adhi-tiṣṭha ＜ adhi- は前綴．＜√ṣṭhā の為自相命令法 3 人称複数形；jñāna「智」＜ jñā，-ana は第 1 次接尾辞による造語名詞；me は 1 人称代名詞の附帯辞与格形（十八 49 参照）．；āveśatu「編入せよ」＜ ā- 前綴，+√viś（命令法 3 人称単数形）．

7】発菩提心方便

Oṃ bodhicittam utpādayāmi.
菩提の心を我発起すべし．・十八 23 を参照．

8】随喜方便

Oṃ sarva-tathāgata-puṇya-jñāna-anumodana-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の福と智とを随喜する供養の雲海をもって編覆する本誓よ.

・puṇya「福」は語基扱い.；anumodana「随喜」＜anu- は前綴. +√mud；megha「雲」＜√mih；samudra「海」＜前綴 sam- ＋√ud；spharaṇa「編覆」＜√sphur.

9】勧請方便

Oṃ sarva-tathāgata-adhyeṣaṇa-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の勧請の供養の雲海をもって編覆する本誓よ.

・adhyeṣaṇa「勧請」＜前綴 adhi ＋√iṣ6.

10】奉請法身方便

Oṃ sarva-tathāgatān adhyeṣayāmi sarva-sattva-hita-arthāya dharma-dhātu-sthitir bhavatu.

一切諸仏を我勧請すべし．一切有情の利益のために，法界に住することがあれ.

・adhyeṣayāmi は前項参照（1 人称単数使役活用形）.；hita「利益」＜√dhā の過受分.；artha「目的」（ここでは与格）＜√arth；sthitiḥ「住」＜√sthā；bhavatu ＜√bhū の命令法 3 人称単数形.

11】廻向方便

Oṃ sarva-tathāgata-niryātana-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来に奉献せし供養の雲海をもって編覆する本誓よ.・niryātana「奉献」20【6】参照（ここでは名詞形）.

21 転法輪

Namaḥ samanta-vajrānāṃ vajra-ātmako ’haṃ.

帰命す，普き諸金剛に．金剛の我性は我なり.

・ātmaka「我性」は 20【6】参照（ここでは抽象名詞）.；

22 不動能成就明

Namaḥ samanta-vajrānāṃ caṇḍa oṃ acala kāṇa caru-sādhāya hūṃ phaṭ.

帰命す, 普き諸金剛に. 暴悪者よ. 不動よ. 眇目者よ. 供物成就のために.

・caṇḍa「暴悪者」＜√caṇḍ；acala「不動」（菩薩が仏陀になる前の 10

段階の一つ）＜ a- ＋√cal；kāṇa「単眼者」は語基扱い．；caru「供物」は語基扱い．；sādha「成就」<sādh.

23 勧請　24 発願　25 五大願

26 普供養

Oṃ sarva-tathāgatebhyo viśva-mukhebhyaḥ sarva-thā kham udgate sphara hi imaṃ gagana-khaṃ svāhā.

帰命す．一切如来の種々巧度門のために．一切種における，空に生ずるものよ．舒遍せよ．真にこの虚空中の空に．

・tathāgatebhyaḥ は複数与格形．；viśva「全」は語基扱いとし，変化は sarva と同様．;mukha「面, 口」は十八 49 参照（ここでは複数与格形）．；-thā は副詞を形成する接尾辞．；kha「空」は語基扱い．；udgate は十八 46 abhyudgata 参照．；sphara ＜√sphur，ここでは命令法 2 人称単数形．；hi は強めの小辞（語基扱い）；imaṃ は ida「是」（語基扱い）の対格形．

27 三力偈　2 三昧耶戒分 28 四無量観　29 地結　30 四方結　31 入佛三昧耶　32 法界生　33 転法輪

34 擐金剛甲

Namaḥ samanta-buddhānāṃ oṃ vajra-kavaca hūṃ.

帰命す，普き諸佛に．金剛の甲冑よ．

・kavaca「甲冑」＜√kū.

35 無堪忍

Namaḥ sarva-tathāgatebhyaḥ sarva-bhaya-vigatebhyo viśva-mukhebhyaḥ sarva-thā *haṃ khaṃ bhaḥ saḥ* rakṣa mahā-bale sarva-tathāgata-puṇya-niryate hūṃ hūṃ traṭ traṭ apratihate svāhā.

帰命す，一切如来の一切の怖畏を除去し，種々方便をなすものに．【一切種における南方・東方・北方・西方大護の種字】；守護せよ，大力者よ．一切如来の功徳より生じたるものよ，内外の二障を恐怖せしむ無等比力あるものよ．

・tathāgatebhyaḥ ここでは複数属格形．；bhaya「怖畏」＜√bhī；vigata ＜ vi- ＋√gam；rakṣa ＜√rakṣ；bala「力」＜√bal；

puṇya は 20【8】を参照．；niryate は 20【6】を参照，ここでは√yā の過受分（呼格形）．；apratihate は十八 36 を参照．

3 事業道場分

36 住定印【覧字観】

37 驚発地神偈

Tvaṃ devī sākṣī-bhūtasi sarva-buddhānāṃ tāyināṃ carya-naya-viśeṣeṣu bhūmi-pāramitāsu ca māra-sāinyaṃ *yathā* bhagnaḥ śākya-siṃhinaḥ tāyinaḥ *tathā* 'haṃ māra-jayaṃkṛtvā maṇḍalaṃ lelikhāmy ahaṃ.

汝女天は親しく証明をなすものなり．一切の仏の導師の能所修の殊勝の行と，地と波羅蜜とに対して，魔軍を破せる釈師子救世者の如くに，その如くに我，魔を征伏して我曼荼羅を画くべし．

・devī「女神」＜ deva（語基扱い）; sākṣī ＜ sa（語基扱い）＋ akṣi（語基扱い）; bhūta ＋ asi ＜ bhūta（bhū の過受分）＋ √as2 人称単数形. ; tāyin「導師」（ここでは複数属格・後出は単数主格）; naya「道」＜ √nī ; viśeṣa「殊勝」（ここでは複数地格）＜ vi- ＋ √śiṣ ; bhūmi「地」＜ √bhū ; pāramitā「波羅蜜」（ここでは複数地格）＜ pāra（語基扱い）; māra「魔」＜ √mṛ ; sainya「軍」＜ sena は語基扱い. ; yathā…tathā は「… のようにそのように」; bhagna ＜ bhañj の過受分. ; śākya「釈迦」（語基扱い）; siṃhi「女獅子」（siṃha は語基扱い ; ここでは単数属格）; jaya「勝利」（ここでは対格）＜ √ji ; kṛtvā ＜ √kṛ の絶対分詞形 ; maṇḍala「曼荼羅」（＜ √maṇḍ）; lelikhāmi ＜ √likh，ここでは強意活用 1 人称単数形.

なおこの偈に関しては，本学中央図書館に，慈雲シューレによるチ 590 － 1「驚発地神偈諸訳互証」が所蔵されている．

38 勧請地神

Namaḥ samanta-buddhānāṃ pṛthivye ehyehi svāhā.

帰命す，普き諸仏に．地天女のために，来たれ来たれ．

・pṛthivyī「地天女」（ここでは単数与格）. ; ehi ＜ ā ＋ √i，ここでは命令法 2 人称単数形（ihi）.

39 地神持次第　十八道参照.

40 作壇

Oṃ nanda-nanda naṭi-naṭi nanda-bhari svāhā.

歓喜の上にも歓喜あるものよ，舞の女神よ，舞の女神よ，歓喜を持来するものよ．

・nanda「歓喜」＜ √nand ; naṭi「舞女神」＜ √naṭ ; bhari（男性形は bhara）＜ √bhṛ.

41 灑浄

Namaḥ samanta-buddhānāṃ apratisame gagana-same samantānugate prakṛti viśuddhe dharma-dhātu-viśuddhane svāhā.

帰命す，普き諸佛に．対等するものなく虚空に等しきものよ．普く随至して本性清浄なるものよ．法界を浄除するものよ．

・a-prati-sama「無･比」（ここでは呼格）;anugata「随至」，anu- は前綴．; prakṛti「本性」，pra- は前綴，＜√kṛ（過受分）．;

viśuddha は十八 8 参照．また -na は名詞造語のための第 1 次接尾辞と見た．

Samanvāharantu me sarve jināḥ karuṇātmakāḥ bhūmi-parigrahaḥ kāryaḥ saputraiḥ śvo-dinātyaye.

存念せよ，我ために．一切の仁者よ．悲愍の我性あるものよ．地を受持することが諸々の仏子によりてなさるべし．明日の晩において．

・sam-, anu-, ā-, harantu ＜√hṛ の命令法 3 人称複数形．; jināḥ ＜√ji（複数呼格形）; karuṇātmakāḥ は十八 53，21 および 20【6】を参照．; parigrahaḥ「受持」，十八 48 参照．; kārya は√kṛ の未来受動分詞（動詞的形容詞）; saputra「佛子」sa ＋ putra（語基扱い，ここでは複数具格）; śvas「明日」は語基扱い．; dinātyaya「夜」＜ dina「日」も同様（ここでは地格）．

42 持地

Namaḥ samanta-buddhānāṃ sarva-tathāgata-adhiṣṭhāna-adhiṣṭhite acale vimale smaraṇe prakṛti-pariśuddhe.

帰命す，普き諸佛に．一切如来の神力によりて，加持せられたるものよ．不動にして無垢なるものよ．憶念の本性清浄なるものよ．

・adhiṣṭhāna「加持」，20【6】参照．; adhi-ṣṭhita は過受分（ここでは呼格）; acala は 22 参照．; vimala「無垢」，vi-，49 参照．; smaraṇa「憶念」（ここでは地格）＜√smṛ．; pariśuddha, pari- は前綴．ここでは呼格．

4 秘密道場分

43 五大観

44 器界観

金剛地輪，大海，金亀

金剛手持華　Vaḥ vajra-pāṇe.　金剛手よ．

・pāṇi「手」は語基扱い（ここでは呼格）.

大蓮華王　Namaḥ samanta-buddhānāṃ a svāhā.　帰命す，善き諸佛に.

五色界道　Namaḥ samanta-buddhānāṃ ra raṃ ka ma ha.　帰命す，善き諸佛に.

45 曼荼羅概観

46 三部字輪観

1】菩提心三昧耶句　Namaḥ samanta-buddhānāṃ bodhi a ṅa ña ṇa na ma svāhā.　帰命す，善き諸佛に．菩提よ.

2】菩提行発恵　Namaḥ samanta-buddhānāṃ carya ā ṅā ñā ṇā nā mā svāhā.　帰命す，善き諸佛に．行よ.

3】成菩提補欠　Namaḥ samanta-buddhānāṃ saṃbodha aṃ ṅaṃ ñaṃ ṇaṃ naṃ maṃ svāhā.　帰命す，善き諸佛に．正覚よ.

・saṃbodha「正覚」，十八 23 を参照.

4】寂静涅槃 Namaḥ samanta-buddhānāṃ nirvāṇa aḥ ṅaḥ ñaḥ ṇaḥ naḥ maḥ svāhā.　帰命す，善き諸佛に．涅槃よ.

・nirvāṇa「涅槃」＜ nir- ＋√vā2.

47 法界平等観

Namaḥ samanta-buddhānāṃ asamāpta-dharma-dhātu-gatiṃgatānāṃ sarvathā aṃ khaṃ *aṃ aḥ saṃ saḥ* haṃ haḥ *raṃ raḥ* vaṃ vaḥ svāhā hūṃ *raṃ raḥ* hra haḥ svāhā *raṃ raḥ* svāhā.

帰命す，善き諸佛の無限の法界に通達したるものに．一切種の【以下，空輪，地輪，風輪，火輪，水輪，身，語，意の種字】.

・asamāpta「無限」，āpta は√āp の過受分．；gati「通」＜√gam.

5 諸会諸聖分

48 八葉中台院

1】大威徳生

Namaḥ samanta-buddhānāṃ raṃ raḥ svāhā.

帰命す，善き諸佛に．【火輪】

2】金剛不壊

Namaḥ samanta-buddhānāṃ vaṃ vaḥ svāhā.

帰命す，善き諸佛に．【水輪】

3】蓮華蔵

Namaḥ samanta-buddhānāṃ saṃ saḥ svāhā.
帰命す，善き諸佛に．【蓮華部】

4】万徳荘厳

Namaḥ samanta-buddhānāṃ haṃ haḥ svāhā.
帰命す，善き諸佛に．【風輪】

5】一切支分生

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ aḥ svāhā.
帰命す，善き諸佛に．【普賢】

6】世尊陀羅尼

Namaḥ samanta-buddhānāṃ buddha-dhāraṇi smṛti-bala-dhāna-kari dharaya sarvaṃ bhagavaty-ākāravati-samaye svāhā.
帰命す，善き諸佛に．仏の陀羅尼よ．念力を保持することをなすものよ．一切を保持せよ．世尊の形相を具する本誓よ．
・dhāraṇi「陀羅尼」＜√dhṛ；smṛti「念力」＜√smṛ；bala 35 参照；dhāna「保持」＜√dhā3；kara 十八 48 参照．；dharaya ＜ dhṛ10 の命令法 2 人称単数形．;bhagavat「世尊」＜ bhaga（語基扱い），-vat は第 2 次接尾辞（次も）．-i については十八 23 参照．;ākāra「形相」＜ ā- ＋√kṛ.

7】法住

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ā veda-vide svāhā.
帰命す，善き諸佛に．神聖智によりて悟るもののために．
・veda「神聖智」，vida「見者」（ここでは地格）＜√vid2.

8】迅疾持

Namaḥ samanta-buddhānāṃ mahā-yoga-yogini yogeśvari khaṃ jarike svāhā.
帰命す，善き諸佛に．大瑜伽の観行者よ．瑜伽に自在なるものよ．空に生成せるものよ．
・yoga「瑜伽」yogin「観行者」＜√yuj；iśvara，十八 53 を参照．；khaṃ 十八 17 参照．；jarika ＜√jṛ，-ika については十八 28 を参照.

9】満足一切智智明

10】遍法界無所不至

Namaḥ sarva-tathāgatebhyo viśva-mukhebhyaḥ sarvathā a ā aṃ aḥ.
帰命す，一切如来の種々巧度門のために．一切種の．【発心　修業

菩提　涅槃】　・26 を参照.

11】百光遍照

49 遍知院

1 】一切仏心

Namaḥ samanta-buddhānāṃ sarva-buddha-bodhisattva-hṛdayāny āveśani namaḥ sarva-vide svāhā.

普き諸佛に帰命す．一切の仏と菩薩との心に遍入することよ．帰命す，一切を悟るもののために．

・hṛdaya「心」中性名詞ゆえ複数主・対・呼格で -āni となる（ここでは対格）；āveśa については 20【6】を参照．ここは命令法 1 人称単数形ととった（-āni）.

2 】虚空眼明妃

Namaḥ samanta-buddhānāṃ gagana-vara-lakṣaṇe gagana-same sarvato udgatābhiḥ sāra-sambhave jvala namo amoghānāṃ svāhā.

普き諸佛に帰命す．虚空の如き勝上の相あるものよ，虚空に等しきものよ，一切より生じたるがゆえに．堅固のものより生ぜるものよ，光明あるものよ．不空なるものに帰命す.

・vara「勝上」＜√vṛ9；lakṣaṇa「相」＜√lakṣ；sarvatā「一切」；udgatā は十八 46 参照（ここでは複数具格）；sāra は十八 28 参照；sambhavā「生ぜるもの」は十八 32 参照（ここでは女性語尾により抽象名詞化されたものの呼格）；amogha は十八 27 参照（ここでは複数属格）.

3 】一切菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ sarvathā vimati-vikiraṇa-dharma-dhātu-nirjata saṃ saṃ ha svāhā.

普き諸佛に帰命す．一切種の疑惑を除棄せる法界より生じたるものよ.

・vimata「疑惑」＜ vi- ＋√man；vikiraṇa「除棄」＜ vi- ＋√kī̄；nirjata「生じたるもの」＜ nis ＋√jan（過受分）.

50 観音院

1 】観自在菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ sarva-tathāgata-avalokita-karuṇā-maya ra ra

ra hūṃ jaḥ svāhā.

普き諸佛に帰命す．一切如来の観見と悲とより成立するものよ．

・avalokita「観見」, karuṇā「悲」は十八 53 を参照．;maya「成るもの」は十八 24 を参照.

2】多羅

Namaḥ samanta-buddhānāṃ karuṇa udbhave tāre tāriṇi svāhā.

普き諸佛に帰命す．悲愍より生じたる多羅よ，救度するものよ．

・udbhava は十八 9 を参照．；tārā「救う母」＜√tṝ，観自在菩薩の一種の配偶神（ここでは呼格）；tāriṇ「度者」＜√tṝ.

3】毗俱胝

Namaḥ samanta-buddhānāṃ sarva-bhaya-trāsani hūṃ sphoṭaya svāhā.

普き諸佛に帰命す．一切の恐怖中の恐怖よ，摧破せよ．

・bhaya「恐怖」，十八 35 を参照．；trāsana ＜√tras.；sphoṭaya ＜√sphuṭ, 使役の意を失った使役活用命令法 2 人称単数形.

4】大勢至

Namaḥ samanta-buddhānāṃ jam jam saḥ svāhā.

普き諸佛に帰命す.

5】耶輸陀羅

Namaḥ samanta-buddhānāṃ yaṃ yaśodharāya svāhā.

普き諸佛に帰命す．耶輸陀羅のために.

・yaśodhara「耶輸陀羅」（ここでは与格），yaśas「美」＋ dhara「持」

6】白処

Namaḥ samanta-buddhānāṃ tathāgata-viṣaya-sambhave padma-mālini svāhā.

普き諸佛に帰命す．如来の境界より生じたるものよ，蓮華の鬘を持するものよ.

・viṣaya「境界」は語基扱い．；sambhava は 49【2】を参照．；mālini ＜ māla，十八 54 を参照.

7】馬頭

Namaḥ samanta-buddhānāṃ hūṃ khāda bhañja sphoṭaya svāhā.

普き諸佛に帰命す，噉食せよ．破壊せよ．摧破せよ．

・khāda ＜√khād；bhañja ＜√bhañj.

8】諸菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ kṣaḥ ḍaḥ taraḥ yaṃ kaṃ.
普き諸佛に帰命す.

9 】地蔵

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ha ha ha sutanu svāhā.
普き諸佛に帰命す，妙身あるものよ.
・sutanu ＜「妙身」（ここでは呼格）su（語基扱い）＋√tan.

10】諸奉教者

Namaḥ samanta-buddhānāṃ dhi śri haṃ braṃ.
普き諸佛に帰命す.

51 金剛手院【薩埵院】

1 】金剛手

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ caṇḍa mahā-roṣaṇa hūṃ.
普き諸金剛に帰命す．暴悪なるものよ．大憤怒者よ.
・caṇḍa は 22 を参照．；roṣaṇa「憤怒」＜ roṣa ＜√ruṣ.

2 】忙莽計

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ triṭ triṭ jayanti svāhā.
普き諸金剛に帰命す．勝利あるものよ.
・jayanti ＜√ji（Guṇa 化；現能分）.

3 】金剛針

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ sarva-dharma-nirvedhani vajra-sūci-varade svāhā.
普き諸金剛に帰命す．一切法を穿貫するものよ．金剛針の勝願よ.
・nirvedhana「穿貫者」，＜ nis-，＋√vyadh.；sūci「針」＜√sūc.；varadā「勝願」（ここでは呼格），十八 53 をも参照

4 】金剛鏁

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ bandha bandhaya moṭa moṭaya vajrodbhave sarvatra apratihate svāhā.
普き諸金剛に帰命す．縛せよ，縛さしめよ．粉砕せよ，粉砕せしめよ．金剛より生じたるものよ．一切処に，能く害するものなきものよ.
・bandha ＜√bandh（命令法）；bandhaya（使役活用命令法）；moṭa ＜√muṭ（命令法）；moṭaya（使役活用命令法）；vajra ＋ udbhava については十八 9 を参照．；sarvatra および apratihate については十八 36

を参照（ここでは呼格）.

5】降三世金剛

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ hrīḥ hūṃ phaṭ.

普き諸金剛に帰命す.

6】一切持金剛

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ hūṃ hūṃ hūṃ phaṭ phaṭ phaṭ jaṃ jaṃ svāhā.

普き諸金剛に帰命す.

7】金剛拳

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ sphoṭaya vajra-sambhave svāhā.

普き諸金剛に帰命す．摧破せよ．金剛より生じたるものよ.

・sambhava は 49【2】を参照.

8】一切奉教金剛

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ he he kiṃ-cirāyasi gṛhnā gṛhnā khāda khāda paripūraya sva-pratijñāṃ svāhā.

普き諸金剛に帰命す．おお，汝は何を遅延するや．執えよ，執えよ．噉盡せよ．噉盡せよ．充満せよ，自己の立願を.

・kim「何」は疑問代名詞中性形（語基扱い）;cira「遅い」（語基扱い）＞ ciraya（名詞語根動詞，ここでは 2 人称単数形）；gṛhnā ＜ √grah, 命令法 2 人称単数･破格形;khāda ＜ √khād（命令法）; paripūraya ＜ pari- ＋ pūra「充満」（＜√pṝ）からの名詞語根動詞；sva「自己」は語基扱い；jñā「願」＜ √jñā.

52 持明院

1】般若菩薩

Oṃ dhi śrī-śrūta-vijaye svāhā.

吉祥の名聞ある尊勝なるものよ.

・śrī「吉祥」は語基扱い.；śrūta ＜ śru の過受分.；vijayā「勝利」＜ vi- ＋ √ji（ここでは呼格）.

2】不動明王

Namaḥ sarva-tathāgatebhyaḥ sarva-mukhebhyaḥ sarvathā traṭ caṇḍa mahā-roṣaṇa khaṃ khā he khā he sarva-vighnaṃ hūṃ traṭ hāṃ māṃ.

帰命す，一切如来の一切の巧度門に．一切処に．暴悪者よ．大憤怒者よ．おお掘り去ることよ，おお掘り去ることよ,

一切の障碍を.

・26 参照. caṇḍa は 22 参照. ; mahā-roṣaṇa は 51【1】を参照. ; khā ＜ √khā ; vighnaṃ「障碍」(ここでは対格) ＜ vi- ＋ √han.

3】降三世

Oṃ sumbha nisumbha hūṃ gṛhnā gṛhnā hūṃ gṛhnā paya hūṃ ānaya hoḥ bhagavan vajra hūṃ phaṭ.

蘇婆よ，儞蘇婆よ，捕捉せよ，捕捉せよ．捕捉せよ．捕捉せよ．行き去れ．捉え来たれ．世尊金剛よ.

・sumbha「蘇婆」nisumbha「儞蘇婆」はいずれも降三世明王の異名. ; gṛhnā は 51【8】を参照. ; paya ＜ pay ; ānaya ＜ ā ＋ √nī，以上いずれも命令法. ; bhagavan は十八 48【6】を参照.

4】大威徳

Oṃ hrīḥ ṣṭrī vikṛta-ānana hūṃ sarva-śatrūn nāśaya stambhaya stambhaya sphoṭa sphoṭa svāhā.

変相あるものよ．一切の怨敵を摧滅せよ．禁止せしめよ，禁止せしめよ．摧破せよ，摧破せよ.

・vikṛta ＜ vi- ＋ √kṛ（過受分）; ānana ＜ āna（語基扱い）; śatrūm「敵」は語基扱い（ここでは対格，連声）; nāśaya ＜ √naś4
（名詞語根動詞，命令法）; stambhaya ＜ √stambh（命令法）.

5】降三世

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ ha ha ha vismaye sarva-tathāgata-viṣaya-sambhava-trailokya-vijaya hūṃ jaḥ svāhā.

善き諸金剛に帰命す．驚嘆をもって充たさるるものよ．一切如来の境界より生じたる降三世よ.

・vismayā「驚嘆」(ここでは呼格) ＜ vi ＋ √smi ; viṣaya は 50【6】参照. ; trailokya-vijaya「降三世明王」.

53 釈迦院

1】釈迦牟尼佛

Namaḥ samanta-buddhānāṃ bhaḥ sarva-kleśa-nisādana sarva-dharma-vaśita-prāpta gagana-sama-asama svāhā.

善き諸佛に帰命す．一切の煩悩を摧伏するものよ．一切の法に自在を得たるものよ．虚空に等しく無等比なるものよ.

・kleśa「煩悩」＜√kliś；nisādana「摧伏者」＜ ni-（前綴）＋√sad；vaśita「自在」＜√vaś；prāpta ＜ pra- ＋√āp（過受分）.

2】能寂母

Namaḥ samanta-buddhānāṃ tathāgata-cakṣur-vyavalokāya svāhā.

善き諸佛に帰命す．如来の眼をもって観見するもののために.

・cakṣu「眼」＜√cakṣ；vyavaloka「観見者」（ここでは与格）＜ vi-, ava- ＋√lok.　十八 53 をも参照.

3】毫相

Namaḥ samanta-buddhānāṃ varade vara-prāpte hūṃ svāhā.

善き諸佛に帰命す．勝願よ，勝願を得たるものよ.

・varadā は十八 53 を参照.；vara は 49【2】を参照.；prāptā は 53【1】を参照（女性呼格形）.

4】一切諸佛頂

Namaḥ samanta-buddhānāṃ baṃ baṃ baṃ hūṃ hūṃ hūṃ phaṭ svāhā.

善き諸佛に帰命す.

5】白傘蓋佛頂

Namaḥ samanta-buddhānāṃ laṃ sitāta-pattra-uṣṇīṣa svāhā.

善き諸佛に帰命す．白傘蓋佛頂よ.

・sitāta「白性」＜ sita は語基扱い.；pattra「翼」＜√pat；uṣṇīṣa「佛頂」＜√uṣ.

6】勝佛頂

Namaḥ samanta-buddhānāṃ śaṃ jaya-uṣṇīṣa svāhā.

善き諸佛に帰命す．勝佛頂よ.

・jaya「勝利」は十八 37 を参照.

7】最勝佛頂

Namaḥ samanta-buddhānāṃ śī si vijaya-uṣṇīṣa svāhā.

善き諸佛に帰命す．最勝佛頂よ.

・vijaya「最勝」＜ vi- ＋√ji.

8】光聚佛頂

Namaḥ samanta-buddhānāṃ trīṃ teyo-rāśy-uṣṇīṣa svāhā.

善き諸佛に帰命す．光聚佛頂よ.

・teyas「鋭」＜√tij；rāśi「聚」は語基扱い.

9】除障佛頂

Namaḥ samanta-buddhānāṃ hrūṃ vikiraṇa-pañca-uṣṇīṣa svāhā.
善き諸佛に帰命す．五蓋障を除く佛頂よ．
・vikiraṇa ＜ √vi- ＋ kṝ；pañca(n)「五」は語基扱い．

10】廣生佛頂

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ṭrūṃ uṣṇīṣa svāhā.
善き諸佛に帰命す．佛頂よ．

11】発生佛頂

Namaḥ samanta-buddhānāṃ śrūṃ uṣṇīṣa svāhā.
善き諸佛に帰命す．佛頂よ．

12】無量声佛頂

Namaḥ samanta-buddhānāṃ hūṃ jaya-uṣṇīṣa svāhā.
善き諸佛に帰命す．勝佛頂よ．

13】諸声聞衆

Namaḥ samanta-buddhānāṃ hetu-pratyaya-vigata-karma-nirjata hūṃ.
善き諸佛に帰命す．因縁を離れたる業生よ．
・hetu「因」＜ √hi；pratyaya「縁」＜ prati- ＋ √i；vigata ＜ vi ＋ √ga（過受分）；karma「業」十八 48 参照；nirjata「生」＜ nis- ＋ √jan（過受分）．

14】諸縁覚衆

Namaḥ samanta-buddhānāṃ vaḥ.
善き諸佛に帰命す．

15】無能勝

Namaḥ samanta-buddhānāṃ dhriṃ dhriṃ riṃ riṃ jriṃ jriṃ svāhā.
善き諸佛に帰命す．

16】無能勝妃

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aparājite jayanti svāhā.
善き諸佛に帰命す．無能勝妃よ，戦勝者よ．
・aparājitā（「妃」ゆえ女性語尾形，ここでは呼格）＜ apara-（＜ apa 前綴）＋ ajita（＜ √ji）．

54 文殊院

1】文殊菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ maṃ he he kumāraka vimukti-patha-sthita smara smara pratijñāṃ svāhā.

善き諸佛に帰命す．おお童子よ．解脱道に住するものよ．憶念せよ憶念せよ宿願を．

・kumāraka「童子」（呼格，＜ kumāra），ku（軽侮辞，語基扱い）＋√mṛ1；vimuktī（ここでは呼格）＜ vi- ＋√muc（過受分）；patha「道」＜√path；sthita ＜√sthā；smara（命令法）＜√smṛ；pratijñāṃ は 51【8】参照.

2】光網菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ jaṃ he he kumāra māya-gata-svabhāva-sthita svāhā.

善き諸佛に帰命す．おお童子よ．幻を知解する自性に住するものよ．

・kumāra は前項参照；māya「幻」＜√mā2；gata ＜√gam；svabhāva 十八 8 参照；sthita 前項参照.

3】無垢光菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ he kumāra vicitra-gati-kumāram anusmara svāhā.

善き諸佛に帰命す．おお童子よ．種々の行の童子を憶念せよ．

・vicitra「種々の」＜ vi-, √cit1；gati「行」＜√gam；anusmara（命令法）＜ anu- ＋√smṛ.

4】計設尼

Namaḥ samanta-buddhānāṃ kli he he kumārike dāya-jñānaṃ smara smara pratijñāṃ svāhā.

善き諸佛に帰命す. おお童女よ. 与願の智を憶念せよ. 憶念せよ本願を.

・kumārikā（「童女」女性形, ここでは呼格）は本項【1】参照. ；dāya「与願の」＜√dā.

5】烏波計設爾

Namaḥ samanta-buddhānāṃ dri bhinnāya ajñānaṃ he kumārike svāhā.

善き諸佛に帰命す．無智を穿つことのために．おお童女よ．

・bhinna「穿ち」（ここでは与格）＜√bhid；ajñāna は十八 20【6】参照.

6】地慧菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ hli he smara jñāna-ketuṃ svāhā.

善き諸佛に帰命す．おお憶念せよ，智慧の幢を．

・ketu「幢」（ここでは対格）＜√cit.

7】質怛羅童子

Namaḥ samanta-buddhānāṃ mli citra svāhā.
善き諸佛に帰命す．雑色童子よ．
・citra「質怛羅」.

8 】召請童子
Namaḥ samanta-buddhānāṃ ākarṣaya-sarvaṃ kuru ājñaṃ kumārasya svāhā.
善き諸佛に帰命す．召請の一切をなせ．文殊童眞の教令を．
・ākarṣaya ＜ ā- ＋ √kṛṣ（使役活用，命令法）；ājña「教令」＜ ā ＋ jña；kumāra（ここでは単数属格）.

9 】不思議童子
Namaḥ samanta-buddhānāṃ ā vismayanīye svāhā.
善き諸佛に帰命す．稀有奇特の事をなすものよ．
・vismayanīyā（ここでは呼格）＜ vi- ＋ √smi.

55 除蓋障院

1 】除蓋障菩薩
Namaḥ samanta-buddhānāṃ ā sattva-hita-abhyudgata traṃ traṃ raṃ raṃ svāhā.
善き諸佛に帰命す．有情の利益を現出するものよ．
・sattva「有情」hita「利益」は十八 45 および 20【10】を参照. abhyudgata ＜ abhi-, ud-, ＋ √gam.

2 】除疑怪菩薩
Namaḥ samanta-buddhānāṃ vimati-chedaka svāhā.
善き諸佛に帰命す．疑惑を裁断するものよ．
・vimati は 49【3】参照．；chedaka「裁断者」＜ √chid.

3 】施無畏菩薩
Namaḥ samanta-buddhānāṃ abhayaṃ dada svāhā.
善き諸佛に帰命す．無畏を施与するものよ．・abhaya「無畏」＜ a（否定の接頭辞）＋ √bhī；dada「与え手」＜ √dā.

4 】除一切悪趣
Namaḥ samanta-buddhānāṃ abhyuddhāraṇi sattva-dhātuṃ svāhā.
善き諸佛に帰命す．衆生界を挙ぐるものよ．
・abhyuddhāraṇi ＜ abhi-（前綴），ud- ＋ dhāraṇī.

5】救護菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ he mahā-mahā smara pratijñāṃ svāhā.

善き諸佛に帰命す．おお大中の大なるものよ．本願を憶念せよ．

・pratijñā「本願」51【8】参照.

6】大慈生菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ svacittodgata svāhā.

善き諸佛に帰命す．自心より生じたるものよ．

・svacittodgata ＜ sva-, citta（＜√cint），ud- ＋√gam.

7】悲施潤菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ karuṇā-mreḍita svāhā.

善き諸佛に帰命す．悲念に纏わるるものよ．

・mreḍita ＜ √mreḍ.

8】除一切熱悩菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ he varada vara-prāpta svāhā.

善き諸佛に帰命す．おお勝願を与ふるものよ．勝願を得たるものよ．

・prāpta 53【1】参照.

9】不思議恵菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ sarva-āśa-paripūra svāhā.

善き諸佛に帰命す．一切の願を満たすものよ．

・āśa「願」＜ ā+ √śaṃs；paripūra は 51【8】参照.

56 地蔵院

1】地蔵菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ha ha ha vismaye svāhā.

善き諸佛に帰命す．稀有なるものよ．

・vismayā（ここでは呼格）は 52【5】参照.

2】宝処菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ he mahā-mahā svāhā.

善き諸佛に帰命す．おお大中の大なるものよ．

3】宝手菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ratnodbhava svāhā.

善き諸佛に帰命す．宝より生ずるものよ．

・ratnodbhava ＜ ratna（十八 48 参照），ud- +√bhū.

4】持地菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ dharaṇi-dhara svāhā.

善き諸佛に帰命す．地を持するものよ．

・dharaṇi「地」dhara「持者」＜ともに√dhṛ.

5】宝印手菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ratna-nirjāta svāhā.

善き諸佛に帰命す．宝より生ずるものよ．

・nirjāta ＜ nis- ＋√jā.

6】堅固意菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ vajra-sambhava svāhā.

善き諸佛に帰命す．金剛智より生じたるものよ．

57 虚空蔵院

1】虚空蔵菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ākāśa-samanta-anugata-vicitra-ambara-dhara svāhā.

善き諸佛に帰命す．虚空に普く随至する雑色衣を著するものよ．

・ākāśa「虚空」＜ ā- ＋√kāś；anugata「随至」＜ anu- ＋√gam；vicitra は 54【3】参照；ambara「衣」は語基扱い；dhara ＜√dhṛ.

2】虚空無垢菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ gagana-ananta-gocara svāhā.

善き諸佛に帰命す．虚空の如くに無辺なる所行よ．

・ananta「無辺」＜√ant；gocara「牧場」「所行」＜ go（語基扱い）.

3】虚空恵菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ cakra-vartti svāhā.

善き諸佛に帰命す．法輪を転ずるものよ．

・varttī（ここでは呼格）十八 53 を参照.

4】蓮華印菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ kuvalaya svāhā.

善き諸佛に帰命す．睡蓮を有するものよ．

・kuvalaya「睡蓮」.

5】清浄慧菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ dharma-sambhava svāhā.

善き諸佛に帰命す．法より生じたるものよ．

6】行慧菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ padma-ālaya svāhā.

善き諸佛に帰命す．蓮華の蔵よ．

・ālaya「蔵」「住処」（cf．阿頼耶識）＜ ā- ＋ √lī.

7】安住慧菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ jñāna-udbhava svāhā.

善き諸佛に帰命す．智より出現せるものよ．

・udbhava は十八 9 参照.

8】出現智菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ji vajra-sthira-buddhe pūrva-vā-ātma-mantra-sara svāhā.

善き諸佛に帰命す．金剛の如くに堅固なる智よ，実に本初の自我の真言の動作よ．

・sthira「堅固な」＜ √sthā；buddhi「智」（ここでは呼格）＜ √budh；pūrva「初の」は語基扱い；vā「あたかも」は語基扱い；ātma(n) は 20【6】参照；mantra「真言」「呪」＜ √man；sara は 27 参照.

9】執杵菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ vajra-kāra svāhā.

善き諸佛に帰命す．金剛の作業よ．

・kāra「作業」＜ √kṛ.

10】壇波羅蜜

Oṃ bhagavati dāna-adhipate visṛja pūraya dānaṃ svāhā.

世尊明妃よ，施主よ，棄捨せよ．布施を充足せしめよ．

・bhagavatī（女性形，ここでは呼格），48【6】をも参照；dāna「施」＜ √dā3；adhipatā（ここでは呼格）＜ adhi- ＋ pata「主」（＜ √pat）；visṛja ＜ vi- ＋ √sṛj（ここでは命令法）；pūraya は 51【8】を参照.

11】戒波羅蜜

Oṃ śīla-dhāriṇi bhagavati hūṃ haḥ.

戒を持する世尊明妃よ．

・śīla「戒」＜ √śīl；dhāriṇī（持者，女性呼格形），

12】忍波羅蜜

Oṃ bhagavati kṣānti-dhāriṇi hūṃ phaṭ.

世尊明妃なる，忍辱を持するものよ.

・kṣānti「忍辱」＜√kṣam.

13】精進波羅蜜

Oṃ vīrya-kari hūṃ vīrye vīrye svāhā.

精進をなすものよ，精進よ，精進よ.

・vīrya「精進」＜√vīr；karī（「為者」女性形，ここでは呼格）＜√kṛ5；vīrye は vīryā（女性形）の呼格.

14】禅波羅蜜

Oṃ bhagavati sarva-pāpa-kāriṇi naitye hūṃ phaṭ.

一切の罪を棄除する世尊明妃よ，永劫よ.

・pāpa は 20【4】参照；kāriṇī（ここでは呼格）＜√kṝ；naityā「永劫」（女性形，ここでは呼格，<nityā）＜ni（語基扱い）.

15】般若波羅蜜　持明院 52【1】と同一.

16】方便波羅蜜

Oṃ mahā-maitra-citte svāhā.

大慈の心よ.

・maitra は十八 46 参照；cittā（ここは女性呼格形）は十八 23 参照.

17】願波羅蜜

Oṃ karuṇi-karuṇi ha ha ha saṃ svāhā.

悲中の悲よ.

・karuṇa は十八 53 を参照.

18】力波羅蜜

Oṃ damani-modite hūṃ ha ha ha hūṃ jaḥ svāhā.

降伏の喜びよ.

・damana「降伏」＜√dam；moditā「喜」＜√mud.

19】智波羅蜜

Oṃ mama jñāna-kari hūṃ svāhā.

我の智の作業よ.

・mama は aham（語基扱い）の属格；karī「作業」＜√kṛ.

20】諸菩薩　観音院 50【8】と同一.

58 最外院

1 】自在天子

Namaḥ samanta-buddhānāṃ oṃ parādy-ātma-ratibhyaḥ svāhā.
善き諸佛に帰命す．最高我の諸々の適悦のために．
・parādy ＜ para（語基扱い）+ādi「等」（語基扱い）；ātma は 20【6】参照；rati「適悦」（ここでは複数与格）＜√ram.

2】普華天子
Namaḥ samanta-buddhānāṃ manoramā-dharma-sambhava-vibhava-kathana saṃ saṃ svāhā.
善き諸佛に帰命す．意悦の法より生じたる富財を語るものよ．
・manoramā「意悦」＜√man；vibhava「富財」＜ vi-+√bhū；kathana「話者」＜√kath.

3】光鬢天子
Namaḥ samanta-buddhānāṃ ja dyotisyānāṃ svāhā.
善き諸佛に帰命す．光明のために．
・dyotisya「光明」（ここでは複数属格，-ya は第 2 次接尾辞）＜√dyut.

4】満意天子
Namaḥ samanta-buddhānāṃ a oṃ ha ha nidhibhyaḥ svāhā.
善き諸佛に帰命す．諸々の宝蔵あるもののために．
・nidhi「宝蔵」（ここでは複数与格）＜ ni-+√dhā3.

5】遍音天子
Namaḥ samanta-buddhānāṃ oṃ ava-svarebhyaḥ svāhā.
善き諸佛に帰命す．遍音天のために．
・ava-svarebhyaḥ ＜ ava- は前綴．svara「天」（ここでは複数与格）は語基扱い．

6】伊舎那天
Namaḥ samanta-buddhānāṃ rudrāya svāhā.
善き諸佛に帰命す．暴悪天のために．
・rudra（ここでは与格）「暴悪天」＜√rud.

7】部多衆
Namaḥ samanta-buddhānāṃ guṃ i guṃ i maṃ saṃ ne.
善き諸佛に帰命す．
Namaḥ samanta-buddhānāṃ oṃ guhya-guhya-vaṉśani-bhūtānāṃ svāhā.
善き諸佛に帰命す．秘密中の秘密の種族たる部多衆に．
・guhya は十八 54 参照．；vaṉśani「種族」＜ vaṉśa は語基扱い．；

bhūta は 37 参照（ここでは複数属格）.

8 】帝釈天王

Namaḥ samanta-buddhānāṃ śakrāya svāhā.

善き諸佛に帰命す．帝釈のために.

・śakra「帝釈」（ここでは与格）＜√śak.

9 】持国天王

Namaḥ samanta-buddhānāṃ oṃ dhṛta-rāṣṭra-rārā-pramadana svāhā.

持国天の明美なる楽欲よ.

・rāṣṭra「国」＜√rāj；rārā「美」（＝ rāḍhā, 語基扱い）；pramadana「楽欲」＜ pra- +√mad.

10】日天子

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ādityāya svāhā.　善き諸佛に帰命す．日天のために.

・āditya「日天」（ここでは与格）.

11】摩利支天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ māricye svāhā. 善き諸佛に帰命す．摩利支天の為に.

・mārici「摩利支天」（ここは与格）.

12】七曜十二宮神九執

Namaḥ samanta-buddhānāṃ graheśvarya-prāpta-jyotirmaya svāhā.

善き諸佛に帰命す．運命執持の自在を得たる曜星よ.

・graheśvarya ＜ graha（十八 48 参照）＋ īśvara（十八 53 参照）；prāpta53【1】参照.；jyotirmaya「曜星」＜ jyotis(<jyut) ＋ maya（十八 24 参照）.

13】大梵天王

Namaḥ samanta-buddhānāṃ prajāpataye svāhā.

善き諸佛に帰命す．一切生主のために.

・prajāpati「一切生主」（ここでは与格）＜ prajā（<pra- +√jā4）＋ pati（＜√pat，57【10】参照）.

14】乾闥婆王

Namaḥ samanta-buddhānāṃ viśuddha-svara-vāhini svāhā.

善き諸佛に帰命す．清浄なる音を運ぶものよ.

・viśuddha は十八 8 参照；svara は 58【5】参照；vāhinī「運者」（こ

こでは呼格）＜√vah.

15】諸阿修羅王

Namaḥ samanta-buddhānāṃ raṭa raṭa dhvāntaṃ vra vra.

善き諸佛に帰命す．吼えよ，吼えよ，暗黒に．

・raṭa ＜√raṭ（命令法）；dhvāntaṃ ＜√dhvan －.

16】摩睺羅伽

Namaḥ samanta-buddhānāṃ garalaṃ viralaṃ.

善き諸佛に帰命す．蛇毒の希薄なるものを．

・garala「蛇毒」＜√gṝ；virala「希薄な」は語基扱い.

17】諸緊那羅

Namaḥ samanta-buddhānāṃ hasanāṃ vihasanāṃ.

善き諸佛に帰命す．笑あり，哄笑あるものに．

・hasana「笑者」＜√has；vihasana<vi-+ ＜√has.

18】諸人

Namaḥ samanta-buddhānāṃ icchā-paramāṇu-maye mi svāhā.

善き諸佛に帰命す．希求の極微より成立するものよ．

・icchā「希求」＜√iṣ;paramāṇu「極微」＜ para-+√aṇ;mayā「成立者」（ここでは女性形，十八 24 参照）.

19】普世明妃

Namaḥ samanta-buddhānāṃ loka-āloka-karāya sarva-deva-nāga-yakṣa-gandharva-asura-garuḍa-kinnara-mahoraga-ādi-hṛdaya-nyākarṣāya vicitra-gati svāhā.

善き諸佛に帰命す．世の照明となるもののために．一切の天と龍と薬叉と乾闥婆と阿修羅と金翅鳥ｺﾝｼﾞﾁｮｳと人非人と大腹行等との心を摂するもののために．種々の趣よ．

・loka「世」＜√lok；āloka ＜ ā- +√lok；kara 十八 48 参照（ここでは与格）；deva「天」十八 38；nāga「龍」（語基扱い）；yakṣa「夜叉」＜√yakṣ；gandharva「乾闥婆」；asura「阿修羅」；garuḍa「金翅鳥」（＝迦楼羅）；kiṃ-nara「何人」（kiṃ, nara ともに語基扱い）mahoraga「大腹行」＜ mahā+uras「腹」（語基扱い）+ga「行」（√gam）；ādi「等」；hṛdaya「心」；nyākarṣāya ＜ ni- +ākarṣa（ここでは与格），35 参照；vicitra は 54【3】参照；gatī「趣」＜√gam.

20】火天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ agnaye svāhā.
善き諸佛に帰命す．火天のために．
・agni「火」（ここでは与格）．

21】火天后
Namaḥ samanta-buddhānāṃ agnāyai svāhā.
善き諸佛に帰命す．火天后のために．
・agnā「火后」（ここでは与格）．

22】縛斯仙
Namaḥ samanta-buddhānāṃ vasiṣṭhārṣim svāhā.
善き諸佛に帰命す．縛斯ﾊﾞｼ仙のために．
・＜ vasiṣṭha「最良の」（⇒「安住」）

23】阿趺哩仙
Namaḥ samanta-buddhānāṃ atiraya-mahārṣim svāhā.
善き諸佛に帰命す．阿趺哩ｱﾁﾘ atiraya 大仙 mahārṣa のために．

24】尾哩瞿仙
Namaḥ samanta-buddhānāṃ bhṛgu-uttama-mahārṣim svāhā.
善き諸佛に帰命す．尾哩瞿ﾋﾞﾘｸ bhṛgu の最上 uttama の大仙に．

25】驕答摩仙
Namaḥ samanta-buddhānāṃ Gautama-mahārṣim svāhā.
善き諸佛に帰命す．驕答摩ｷｮｳﾄﾏ Gautama 大仙に．

26】蘖哩伽仙
Namaḥ samanta-buddhānāṃ garga-mahārṣim svāhā.
善き諸佛に帰命す．蘖哩伽ｷﾘｶ garga 大仙に．

27】増長天王
Namaḥ samanta-buddhānāṃ oṃ virūḍhaka-yakṣādhipataye svāhā.
善き諸佛に帰命す．増長天 vi-rūḍhaka（＜√ruh）の薬叉主 yakṣa-adhipata（57【10】参照）のために．

28】閻魔王
Namaḥ samanta-buddhānāṃ vaivasvatāya svāhā.
善き諸佛に帰命す．日神 vaivasvata のために．

29】死王
Namaḥ samanta-buddhānāṃ mṛtyave svāhā.
善き諸佛に帰命す．死王のために．

・mṛtī（ここでは与格）＜√mṛ.

30】焔魔后

Namaḥ samanta-buddhānāṃ mṛtyave svāhā.

同上.

31】焔魔七母

Namaḥ samanta-buddhānāṃ mātṛbhyaḥ svāhā.

善き諸佛に帰命す．諸母天のために.

・mātṛ（ここでは複数与格，語基扱い）.

32】暗夜神

Namaḥ samanta-buddhānāṃ kāla-rātriye svāhā.

善き諸佛に帰命す．暗夜神のために.

・kāla「黒」は語基扱い.；rātrī（＜ i）「夜」も語基扱い（ここでは与格）.

33】奉教官

Namaḥ samanta-buddhānāṃ citra-guptāya svāhā.

善き諸佛に帰命す．奉教官のために.

・citra は 54【3】を参照.；gupta ＜√gup（ここでは与格）.

34】拏吉尼

Namaḥ samanta-buddhānāṃ hrī haḥ.

善き諸佛に帰命す.

35】金翅鳥王　Oṃ kṣipa svāhā oṃ pakṣi svāhā.

搏撃するものよ，翼あるものよ.

・kṣipa「撃者」＜ kṣip；pakṣī「翼者」＜√pakṣ.

36】羅刹主

Namaḥ samanta-buddhānāṃ rākṣasādhipataye svāhā.

善き諸佛に帰命す．羅刹主 rākṣasa-adhipata のために.

37】羅刹斯

Namaḥ samanta-buddhānāṃ rākṣasa-gaṇimi svāhā.

善き諸佛に帰命す．羅刹 rākṣāsa に数えられる女よ.

・gaṇimi「衆」＜√gaṇ.

38】将兄

Namaḥ samanta-buddhānāṃ kraṃ keri.

善き諸佛に帰命す.

39】羅刹衆

Namaḥ samanta-buddhānāṃ rākṣasebhyaḥ svāhā.
善き諸佛に帰命す．羅刹衆のために．
・rākṣasa「羅刹」（ここでは複数与格形）＜√rakṣ.

40】廣目天王
Namaḥ samanta-buddhānāṃ oṃ virūpākṣa-nāga-adhipataye svāhā.
善き諸佛に帰命す．廣目龍の主たるものに．
・virūpākṣa「廣目」＜ vi-, rūpa（＜√rūp）, akṣa（＜ akṣi「目」）; nāga「龍」; adhipata（ここでは与格）は 57【10】参照.

41】水天
Namaḥ samanta-buddhānāṃ apāṃ-pataye svāhā.
善き諸佛に帰命す．水の主のために．
・ap「水」は語基扱い（ここでは複数属格）; pata（ここでは与格, 57【10】参照）.

42】難陀抜難陀
Namaḥ samanta-buddhānāṃ nanda-upanandayoḥ svāhā.
善き諸佛に帰命す．難陀 nanda と抜難陀 upananda（ここでは双数与格）との二者に．

43】諸龍
Namaḥ samanta-buddhānāṃ megha-aśanāya svāhā.
善き諸佛に帰命す．雲 megha（20【8】参照）を噉食するもの aśana（＜√aś，ここでは与格）のために．

44】地神
Namaḥ samanta-buddhānāṃ pṛthiviye svāhā.
善き諸佛に帰命す．地天ｼﾞﾃﾝ pṛthivī（ここでは与格）のために．

45】妙音天
Namaḥ samanta-buddhānāṃ sarasvatye svāhā.
善き諸佛に帰命す．弁才天 sarasvatī（ここでは与格）のために．

46】那羅延天
Namaḥ samanta-buddhānāṃ viṣṇave svāhā.
善き諸佛に帰命す．毘紐ﾋﾞﾁｳ天 viṣṇu（ここでは与格）のために．

47】那羅延后
Namaḥ samanta-buddhānāṃ viṣṇavi svāhā.
善き諸佛に帰命す．毘紐ﾋﾞﾁｳ天后 viṣṇavī（ここでは与格）のために．

48】月天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ candrāya svāhā.

善き諸佛に帰命す．月天ｶﾞｯﾃﾝ candra（ここでは与格）のために．

49】廿八宿

Namaḥ samanta-buddhānāṃ nakṣatra-nirnadanye svāhā. Namaḥ samanta-buddhānāṃ oṃ aṣṭa-viṃśatināṃ nakṣatrebhyaḥ nirnadanye ṭaki hūṃ jaḥ svāhā.

善き諸佛に帰命す．星宿の声なきものに．廿八の星宿の声なきもののために凝視するものよ．

・nakṣatra「宿」＜√nakṣ（後出は複数与格）；nirnadana「呟者」（ここでは与格）＜ nis- ＋√nad；aṣṭa-viṃśati（「二十八」，各々語基扱い，ここでは複数属格）；ṭakī：栂尾師によれば，マラーティー語で「凝視」を意味する ṭaka に由来する語かという．

50】風天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ vāyave svāhā.

善き諸佛に帰命す．風天のために．

・vāyu（ここでは与格）＜√vā.

51】魔醯首羅天王

Namaḥ samanta-buddhānāṃ oṃ maheśvarāya svāhā.

善き諸佛に帰命す．大自在天のために．

・maheśvarāya「大自在天」＜ mahā ＋ īśvara（ここでは与格），十八 53 を参照.

52】烏摩妃

Namaḥ samanta-buddhānāṃ umā-devi svāhā.

善き諸佛に帰命す．烏摩ｳﾏ妃 umā-devī よ．

53】遮文荼

Namaḥ samanta-buddhānāṃ cāmuṇḍāyai svāhā.

善き諸佛に帰命す．遮文荼ｼｬﾓﾝﾀﾞ cāmuṇḍā（ここは与格）の為に．

54】多門天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ vaiśravaṇāya svāhā.

善き諸佛に帰命す．多聞天 vaiśravaṇa（毘沙門天）のために．

55】諸薬叉

Namaḥ samanta-buddhānāṃ yakṣeśvara svāhā.

善き諸佛に帰命す．薬叉 yakṣa の自在あるもの īśvara よ．

56】諸薬叉女

Namaḥ samanta-buddhānāṃ yakṣa-vidyādhari svāhā.

善き諸佛に帰命す．夜叉 yakṣa の持明 vidyā（＜√vid2）者 dhari（√dhṛ）よ．

57】諸毗舎遮

Namaḥ samanta-buddhānāṃ piśāca-gati svāhā.

善き諸佛に帰命す．毗舎遮ﾋﾞｼｬｼｬ鬼 piśāca の趣 gatī（cf.【19】）よ．

58】諸毗舎支（ﾋﾞｼｬｼ）

Namaḥ samanta-buddhānāṃ pici pici svāhā.

善き諸佛に帰命す．

59】諸人ならびに普世明妃　【18】【19】を参照．

6 召請結界分

以下，文法的説明を尽くすことよりも，文意を表すことに意を注ぐ．

59 浄治

Oṃ susiddhi-kari jvalita nānā-anta-mūrtaye jvala jvala bandha bandha hana hana hūṃ phaṭ.

妙成就 susiddhi を為す者よ kari，光明あるものよ jvalita．種々の nānā 極限の anta（＜√ant）美 mūrta（ここでは与格）のために．光明よ jvala，光明よ jvala．繋縛よ bandha，繋縛よ bandha．打破せよ hana，打破せよ hana.

60 不動大明王

Namaḥ samanta-buddhānāṃ caṇḍa-mahāroṣaṇa sphoṭaya hūṃ traṭ hāṃ māṃ.

善く諸金剛に帰命す．暴悪大憤怒の相あるものよ，破壊せよ．

・caṇḍa は 22 を参照．；mahā（大）；roṣana「憤怒」＜√ruṣ；sphoṭaya は 50【3】を参照．

61 金剛鉤

Namaḥ samanta-buddhānāṃ āḥ sarvatra apratihata-tathāgata-aṅkuśa bodhi-carya-paripūraka svāhā.

善き諸佛に帰命す．一切処に sarvatra 無碍なる apratihata 如来鉤よ tathāgata-aṅkuśa（√aṅk），菩提の行を bodhi-carya 円満せしむるものよ paripūraka.

62 立身

Namaḥ samanta-vajrānāṃ hāṃ.
帰命す，普き諸金剛に.

63 示三昧耶　20【1】参照.

64 金剛網【虚空網】　65 金剛炎【火院】　66 大三昧耶

7 供養讃嘆分

67 閼伽【沐浴洗足】　68 蓮華座【座に請ず】　69 振鈴　70 四智讃　十八道参照.

71 不動示座　62 を参照.

72 金剛手

Namaḥ samanta-buddhānāṃ caṇḍa-mahāroṣaṇa hūṃ.
普き諸金剛に帰命す，暴悪大憤怒者よ．・60 を参照.

73 擐金剛甲　34 を参照.

74 怖魔

Namaḥ samanta-buddhānāṃ mahā-bala-vati daśa-balodbhave mahā-maitreya abhyudgate svāhā.
普き諸佛に帰命す．大力 mahā-bala あるもの vat（「～を有するもの」を表す形容詞語尾，ここでは呼格）よ．十力 daśa-bala を顕現するものよ udbhavā．大慈 mahā-maitreya を発生するもの abhy-ud-gatā（ここでは呼格）よ.

75 無堪忍四方四大護

Namaḥ samanta-buddhānāṃ sarvatra anugate bandhaya-sīman-mahā-samaya-nirjate smaraṇe apratihate dhāka dhāka cara cara bandha bandha daśa-diśaṃ sarva-tathāgata-anujñate pravara-dharma-labdha-vijaye bhagavati vikule vikule le lu pu ri vi ku ri svāhā.
普き諸佛に帰命す．一切処に sarvatra 随至するもの anu-gatā（ここでは呼格）よ．結 bandhaya 界 sīman（語基扱い）の大本誓 mahā-samaya より生じたる nirjatā（ここでは呼格）憶念 smaraṇā（＜√smṛ, ここでは呼格）よ．無能害のもの a-prati-hatā（＜√han；ここでは呼格）よ．畏敬すべきもの dhāka（栂尾師によれば，マラーティー語に由来する語かという）よ，畏敬すべきもの dhāka よ．行 cara よ，行 cara よ．結縛 bandha よ，結縛 bandha よ．十 daśa（語基扱い）方 diś（ここでは対格，＜√diś）における一切如来 sarva-tathāgata の教法 anujñatā よ．最高の pra-vara 法 dharma

を得て labdha（√labh の過受分）尊勝なる vijayā（ここでは呼格）世尊明妃 bhagavatī（ここでは呼格）よ.

76 無能勝

Namaḥ samanta-buddhānāṃ durdharṣa-mahāroṣaṇa khādaya sarvaṃ tathāgata-ajñāṃ kuru svāhā.

普き諸佛に帰命す．不 dur-（dus- として前分扱い）可越の dharṣa（＜√dhṛṣ）大憤怒者 mahā-roṣaṇa よ．噉食せよ khādaya（＜√khād）．一切 sarva 如来 tathāgata の教勅 ajñā（ここでは対格）を行ふことをなせ（kuru）.

77 相向守護

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ he abhimukha mahā-pracaṇḍa khādaya kiṃ cirāyasi samayam anusmara svāhā.

普き諸金剛に帰命す. おお相向大護 abhi-mukha よ. 大極暴悪者 mahā-pracaṇḍa よ. 噉食せよ khādaya．汝は何ぞ急速ならざるや kiṃ cirāyasi（＜√ci）．本誓 samaya（ここでは対格）を憶念せよ anu-smara.

78 不動尊心

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ hāṃ māṃ.　普き諸金剛に帰命す.

79 塗香　80 花鬘　81 焚香　82 飲食　83 灯明　十八道 46 参照.

84 虚空蔵転明妃

Namaḥ sarva-tathāgatebhyaḥ viśva-mukhebhyaḥ sarvathā kham udgate sphara he māṃ gagana kaṃ svāhā.

一切如来の種々巧度門 mukha（ここでは複数与格）に帰命す．一切の方法をもって sarvathā 空 kha（ここでは対格）生じたるもの ud-gatā よ．舒遍せよ sphara，おお我に māṃ．虚空 gagana よ.

85 事供

86 讃

Sarva-vyabhibhava agra-agrya sugata-adhipate jina traidhātuka-mahārāja vai-rocana namo ’stu te.

一切に卓越せるもの Sarva-vi-abhi-bhava よ. 最上 agra の尊 agrya（＜agra）よ. 善 su（前分）逝 gata 主 adhi-patā よ．勝利者 jina よ．三界 trai-dhātuka の大王 mahā-rāja たる遍照 vai（＜vi-）-rocana（＜√ruc）よ．汝に帰命あれ namo ’stu te.

87 仰啓謝　88 虚空蔵転明妃　89 三力祈願　90 禮佛

8 成身加持分

91 如来身会

1】大慧刀

Namaḥ samanta-buddhānāṃ mahā-khaḍga viraja-dharma-saṃdarśaka sahaja-satkāya-dṛṣṭi-chedaka tathāgata-adhimukti-nirjāta virāga-dharma-nirjāta hūṃ.

普き諸佛に帰命す．大刀 mahā-khaḍga（＜√khād）よ．無垢の法 viraja-dharma を示現するもの saṃ-darśaka（＜√dṛś）よ．俱 sahaja（saha で語基扱い）生の身 satkāya（＜√as）見 dṛṣṭi を裁断するもの chedaka（＜√chid）よ．如来の信解 adhi-mukti を生ずるもの nis-jāta（＜√jan）よ．無貪 vi-rāga（＜√rāñj）の法 dharma を生ずるもの nirjāta よ．

2】大法螺

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ.

普き諸佛に帰命す.

3】蓮華座

Namaḥ samanta-buddhānāṃ āḥ.

普き諸佛に帰命す.

4】金剛恵

Namaḥ samanta-buddhānāṃ hūṃ.

普き諸佛に帰命す.

5】如来頂

Namaḥ samanta-buddhānāṃ hūṃ hūṃ.

普き諸佛に帰命す.

6】如来頂相

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ gagana-ananta-spharaṇa viśuddha-dharma-nirjāta svāhā.

普き諸佛に帰命す．無辺の虚空 gagana-ananta（＜√an）に舒遍するもの spharaṇa よ．清浄 viśuddha の法 dharma を生ずるもの nirjāta よ．

7】毫相蔵

Namaḥ samanta-buddhānāṃ āḥ haṃ jaḥ.

普き諸佛に帰命す.

8】大鉢

Namaḥ samanta-buddhānāṃ bhaḥ.
普き諸佛に帰命す.

9】施無畏

Namaḥ samanta-buddhānāṃ sarvathā jina-jina bhaya-nāśana svāhā.
普き諸佛に帰命す．遍一切の勝者中の勝者 jina-jina よ．怖畏 bhaya（＜√bhī）を除くもの nāśana（＜√naś）よ.

10】與満願

Namaḥ samanta-buddhānāṃ varada vajrātmaka svāhā.
普き諸佛に帰命す．勝願を与ふるもの varada（＜√vṛ）よ．金剛の我 vajra-ātmaka よ.

11】悲生眼

Namaḥ samanta-buddhānāṃ gagana-vara-lakṣaṇa karuṇa-maya tathāgata-cakṣuḥ svāhā.
普き諸佛に帰命す．虚空の如き勝願 gagana-vara の相あるもの lakṣaṇa よ, 悲 karuṇa より成立せる maya（＜ mā2）如来 tathāgata の眼 cakṣuḥ よ.

12】如来索

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ he he mahā-pāśa prasara-āudārya sattva-dhātu-vimohaka tathāgata-adhimukti-nirjāta svāhā.
普き諸佛に帰命す．おお大羂索 mahā-pāśa（＜ paś 10）よ．普遍 prasara 広大にして ā-ud-ārya 有情界 sattva-dhātu の痴を除くもの vi-mohaka（＜√muh）よ．如来の信解 tathāgata-adhimukti より生ぜるもの nirjāta よ.

13】如来心

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ jñāna-udbhava svāhā.
普き諸佛に帰命す．智を生ずるもの jñāna-udbhava よ.

14】如来臍

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ amṛta-udbhava svāhā.
普き諸佛に帰命す．甘露を生ずるもの amṛta-udbhava よ.

15】如来腰

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ tathāgata-sambhava svāhā.
普き諸佛に帰命す．如来より生ずるもの tathāgata-sambhava よ.

16】如来蔵

Namaḥ sarva-tathāgatebhyaḥ raṃ raṃ raḥ raḥ svāhā.

一切の諸々の如来に帰命す.

17】如来普光

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ jvala-mālini tathāgata-arci svāhā.

普き諸佛に帰命す．焔光の鬘を有するもの jvala-mālini よ．如来の光明 tathāgata-arci（＜√arc）よ.

18】如来甲

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ vajra-jvala visphara hūṃ svāhā.

普き諸佛に帰命す．金剛の焔光 jvala よ．舒遍せよ vi-sphara.

19】如来舌相

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ tathāgata-jihva satya-dharma-pratiṣṭhita svāhā.

普き諸佛に帰命す．如来の舌 jihva（語基扱い）よ．真諦の法 satya-dharma に住するもの prati-ṣṭhita よ.

20】如来語

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ tathāgata-mahā-vaktra viśva-jñāna-mahā-udaya svāhā.

普き諸佛に帰命す．如来の大なる口 mahā-vaktra（＜√vac）よ．遍智 viśva-jñāna を大に顕現するもの mahā-udaya（＜√i）よ.

21】如来牙

Namaḥ samanta-buddhānāṃ aṃ tathāgata-daṃṣṭra-rasa-rasāgra-saṃprāpaka sarva-tathāgata-viṣaya-sambhava svāhā.

普き諸佛に帰命す．如来の牙 daṃṣṭra（＜√daṇś）をもって味中の味 rasa-rasāgra（＜√ras）の勝上なるものを得るもの saṃprāpaka（pra-√āp）よ．一切如来の境界 viṣaya（語基扱い）を生ずるもの sam-bhava よ.

22】如来弁舌

Namaḥ samanta-buddhānāṃ acintya-adbhūta-rūpa-vācaṃ samanta-prāpta viśuddha-svara svāhā.

普き諸佛に帰命す. 不思議にして acintya（＜√cint）奇特なる adbhūta（語基扱い）分明 rūpa の言語 vāc（ここでは対格）を遍く samanta 逮得したるもの prāpta（＜√āp）よ．清浄なる vi-śuddha 言音 svara（√svar）よ.

23】如来持十力

Namaḥ samanta-buddhānāṃ daśa-bala-aṇga-dhara hūṃ saṃ jaṃ svāhā.

普き諸佛に帰命す．十力 daśa-bala の支分 aṇga を持するもの dhara よ.

24】如来念処

Namaḥ samanta-buddhānāṃ tathāgata-smṛti-sattva-hita-abhyudgata gagana-sama-asama svāhā.

普き諸佛に帰命す．如来の念をもって smṛti 有情の利益 sattva-hita（<√dhā）を現出する abhi-ud-gata，虚空に gagana 等しく無等比なるもの sama-asama よ．

25】一切法平等開悟

Namaḥ samanta-buddhānāṃ sarva-dharma-samatā-prāpta-tathāgata-anugata svāhā.

普き諸佛に帰命す．一切法 sarva-dharma の平等性を得たる samatā-prāpta 如来に随至するもの anu-gata よ．

92 普賢菩薩如意珠

Namaḥ samanta-buddhānāṃ samatā-anugata viraja-dharma-nirjāta-mahā-mahā svāhā.

普き諸佛に帰命す．平等性に随至するもの samatā-anugata よ．無垢 vi-raja の法 dharma より生じたる nir-jāta 大中の大なるもの mahā-mahā よ．

93 慈氏菩薩

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ajitaṃjaya sarva-sattva-āśaya-anugata svāhā.

普き諸佛に帰命す．未降伏者 a-jita（ここでは対格）を降伏するもの jaya よ．一切有情の sarva-sattva 意楽 āśaya に随順するもの anu-gata よ．

94 三世無礙力

Tadyathā gagana-same apratisame sarva-tathāgata-samatā-anugate gagana-same vara lakṣaṇe svāhā.

曰く Tadyathā，虚空に等しきもの gagana-samā（ここでは呼格）よ．対等なきもの a-prati-samā よ．一切如来の平等性 samatā に随順するもの anu-gatā よ．等虚空 gagana-samā の勝願 vara の相あるもの lakṣaṇā よ．

95 無能害力明妃

Namaḥ sarva-tathāgatebhyaḥ sarva-mukhebhyaḥ asame parame acale gagane smaraṇe sarvatra anugate svāhā.

一切如来の一切の巧度門 mukha（ここでは複数与格）に帰命す．等比するものなく asamā，第一にして paramā 動転なく acalā，虚空の如き gaganā 憶念 smaraṇā の一切処に sarvatra 遍至するもの anu-gatā（以上すべてここ

では呼格）よ.

96 本尊加持　91【6】参照.

97 九重月輪観

9 念誦修習分

98 正念誦　99 本尊加持　100 字輪観　101 本尊加持　102 散念誦

10 後供方便分

103 理供養　104 事供養　105 閼伽　106 讃　107 普供養三力祈願　108 禮佛　109 後鈴　110 廻向　111 解界

112 加持句

Namaḥ samanta-buddhānāṃ sarvathā śim śim traṃ traṃ guṃ guṃ dharaṃ dharaṃ sthāpaya sthāpaya Buddha-satya-vāg hūṃ hūṃ veda-vide svāhā.

普き諸佛に帰命す．一切種 sarvathā よ．地 dhara（ここでは対格）に地 dhara に．住せしめよ sthāpaya（＜√sthā の P 使役活用命令法 2 人称単数形）住せしめよ sthāpaya．佛 Buddha の真実 satya（＜√sat）の語 vāc よ．法 dharma の真実の語よ．僧 saṅgha（sam+√han）の真実の語よ．聖智 veda を了すること vida（ここでは地格）のために.

113 発遣

Oṃ krito vaḥ sarva-sattva-arthaḥ siddhir dattā yathā anugā gacchadhvan Buddha-viṣayaṃ punar āgamanayatu oṃ padma-sattva muḥ.

為されたり krita（ここでは複数主格）, 汝等の一切有情の利益 artha（同）が．悉地 siddhi が与えられたり dattā，随順せる如くに yathā anu-gā．汝等は佛国 Buddha-viṣaya（ここでは対格）に還著せられんことを gacchadhvam（命令法為自相 2 人称複数形）．復た punar 来たらんことを希ふ ā-gam-anayatu（名詞起源動詞「来る」の命令法為他相 3 人称単数形）．蓮華部の薩埵よ.

114 三部三昧耶（十八 9, 10, 11）　115 被甲護身（十八 12）　116 普礼（十八 2）　117 下盤普礼　118 出堂

6. 金剛界行法

胎蔵・金剛界の順序を採ったことに関しては，胎蔵の項の冒頭を参照．なお原典となる『蓮華部心念誦儀軌』に関しては, 優れた校訂版（本稿第 2 節参照,

宮坂宥勝「弘法大師空海請来の梵字真言について」）が入手できたため，栂尾版を基としつつも，随時宮坂版を用いた．

1 上堂行願分

1 上堂観　2 至道場門観　3 開道場門観　4 壇前普礼　5 傳供　6 著座普礼　7 塗香　8 三密観　9 浄三業　10 仏部三昧耶　11 蓮華部三昧耶　12 金剛部三昧耶　13 被甲護身　14 加持香水【灑浄】

15 加持供物

Oṃ nisumbha-vajra hūṃ phaṭ.

ニソンバ nisumbha 金剛よ．

16 覧字観　17 浄地

18 浄身

Oṃ svabhāva-śuddhāḥ sarva-dharmāḥ.

自性 svabhāva 清浄 śuddhi（ここでは複数主格）なる一切諸法よ．

19 浄三業

Oṃ śuddhy-anuśodhanāya svāhā.

清浄 śuddhi に清浄なること anu-śodhana（ここでは与格）のために．

20 仏部心三昧耶　十八道参照．

21 蓮華部心三昧耶

22 金剛部心三昧耶

23 後被甲

Oṃ bhū-jvala hūṃ.

宇宙 bhū の光焔 jvala よ．

24 観仏　25 金剛起　26 本尊普礼

27 四礼

1】東方阿閦礼

Oṃ sarva-tathāgata-pūjopasthānāya ātmānaṃ niryātayāmi sarva-tathāgata vajrasattva adhiṣṭhāsva māṃ hūṃ.

一切如来の供養 pūja 承事 upa-sthāna のために，我己が身 ātmān（ここでは対格）を奉献す nis-yātayāmi（＜√yā）．一切如来よ，金剛薩埵よ，我を加持せよ adhi-ṣṭhāsva（為自相命令法 2 人称単数形）．

2】南方宝生礼

Oṃ sarva-tathāgata-pūjābhiṣekāya ātmānaṃ niryātayāmi sarva-tathāgata

vajra-ratna abhiṣiñca māṃ traḥ.

一切如来の供養 pūja 灌頂 abhi-ṣeka（ここでは与格）のために，我己が身を奉献す．一切如来よ，金剛宝よ，我を灌頂せよ abhi-ṣiñca（<√sic）.

3】西方阿弥陀礼

Oṃ sarva-tathāgata-pūja-pravartanāya ātmānaṃ niryātayāmi sarva-tathāgata vajra-dharma pravartaya māṃ hrīḥ.

一切如来の供養 pūja 展転 pra-vartana（ここでは与格）のために，我己が身を奉献す．一切如来よ，金剛法よ，我に転法せよ pra-vartaya.

4】北方不空成就礼

Oṃ sarva-tathāgata-pūja-karmāṇi ātmānaṃ niryātayāmi sarva-tathāgata vajra-karma kuru māṃ aḥ.

一切如来の供養の諸々の事業 karma（ここでは複数呼格）よ，我己が身を奉献す．一切如来よ，金剛業よ，我がためになせ.

28 金剛持遍礼

Oṃ vajra viḥ oṃ sarva-tathāgata-kāya-vak-citta-vajra-vandanaṃ karomi.

金剛よビフ，一切如来の身 kāya と語 vāc と意 citta との金剛を礼敬すること vandana を我なすべし karomi.

29 五悔　30 五大願

2 三昧耶戒分

31 四無量観

1】慈無量観

Oṃ mahā-maitrya sphara.

大慈 mahā-maitrya よ周遍せよ sphara.

2】悲無量観

Oṃ mahā-kāruṇya sphara.

大悲 mahā-kāruṇya よ周遍せよ.

3】喜無量観

Oṃ śuddha-pramoda sphara.

清浄 śuddha の歓喜 pra-moda（√mud）よ周遍せよ.

4】捨無量観

Oṃ mahopekṣa sphara.

大捨 mahā-upekṣa（upa-√īkṣ）よ，周遍せよ.

32 勝願

Oṃ sarva-tathāgata-śaṃsitāḥ sarva-sattvānāṃ sarva-siddhayaḥ sampadyantāṃ tathāgataś ca adhitiṣṭhantāṃ.

一切如来に称讃せらるるもの śaṃsita（ここでは複数主格形＜√śaṃs）よ，一切有情 sarva-sattva（ここでは複数属格）のために，一切の悉地 sarva-siddhi（ここでは複数主格）を成就せしめよ sampadyantāṃ ＜ sam-√padya（ここでは為自相命令法 3 人称複数形）．諸如来 tathāgata（ここでは複数呼格）よ，また加持せられんことを＜ adhi-√tiṣṭha（ここでは為自相命令法 3 人称複数形）．

33 大金剛輪　34 金剛橛【ｹｯ；地結】　35 金剛墻【ｼｮｳ；四方結】

36 金剛眼

Oṃ vajra-dṛṣṭi ma ṭ.　金剛眼 dṛṣṭi（＜√dṛś）のマ，タよ．

37 金剛合掌　Oṃ vajrāñjali.　金剛合掌 añjali（＜√añj）よ．

38 金剛縛　Oṃ vajra-bandha.　金剛縛 bandha よ．

39 開心　Oṃ vajra-bandha traṭ.　金剛縛よ．

40 入智　Oṃ vajrāveśa aḥ.　金剛の遍入 ā-veśa（＜√viś）よ．

41 合智　Oṃ vajra-muṣṭi baṃ.　金剛拳 muṣṭī（＜√muṣ）よ．

42 普賢三昧耶

43 極喜三昧耶

Samaya hoḥ suratas tvaṃ.

本誓 Samaya よ，妙適 su-rataḥ（＜√ram）こそ，汝なれ tvam.

44 降三世　胎蔵部参照.

45 蓮華部三昧耶

Oṃ vajra-padma-samayas tvaṃ.

金剛蓮 padma の本誓 samayaḥ こそ汝なれ.

46 法輪

Hūṃ ṭāki sphoṭaya mahā-virāga-vajraṃ vajra-dhara satyena ṭhaḥ.

ターキよ破壊せよ sphoṭaya.　大 mahā 離欲 vi-rāga（＜√rañj）の金剛を．持金剛 vajra-dhara の真理 satya（ここでは具格）をもって．

47 大欲

Oṃ surata-vajraṃ jaḥ huṃ baṃ hoḥ samayas tvaṃ.

妙適 su-rata（＜√ram）金剛 vajra を鉤召し引入し縛住し喜ばしむる本誓 samayaḥ こそ汝なれ.

48 大楽不空身

Oṃ mahā-sukha-vajraṃ sādhaya sarva-sattvebhyo jaḥ hūṃ baṃ hoḥ.

大 mahā 楽 sukha（< sukh）の金剛を成就せしめよ sādhaya（< √sādh 命令法 2 人称単数形）．一切有情 sarva-sattva（ここでは複数与格）の為に．

49 召罪

Oṃ sarva-pāpa-ākarṣaṇa-viśodhana-vajra-sattva-samaya hūṃ phaṭ.

一切の罪 pāpa（語基扱い）を鉤召し ā-karṣaṇa（< √kṛṣ）浄除する vi-śodhana（< √śudh）金剛薩埵の本誓 samaya よ．

50 摧罪

Oṃ vajra-pāṇe visphoṭaya sarva-apāya-bandhanāni pramokṣaya sarva-apāya-gatibhyaḥ sarva-sattvānāṃ sarva-tathāgata-vajra-samaye hūṃ traṭ.

金剛手 pāṇi（ここでは呼格）よ, 摧破せよ vi-sphoṭaya．一切悪趣 apāya(<√i) の諸々の繋縛 bandhana（ここでは複数対格）を解脱せしめよ pra-mokṣaya（< √muc）．一切有情 sattva（ここでは複数属格）の持てる一切悪趣の除去 gati（ここでは複数与格）のために（※この一文，栂尾訳に改変を試みた）．一切如来の金剛の本誓 samaya（ここでは地格）において．

51 業障除

Oṃ vajra-karma viśodhaya sarvāvaraṇāni buddha-satyena samaya hūṃ.

金剛業 karma よ. 浄除せよ vi-śodhaya, 一切の障 avaraṇa（ここでは複数対格）を．仏陀の真理 satya（ここでは具格）によりて．本誓 samaya よ．

52 成菩提心

Oṃ candrottare samanta-bhadra kiraṇi mahā-vajriṇi hūṃ.

月上 candra-uttara（ここでは地格）における普賢 samanta-bhadra よ，放光の <kiraṇa 大金剛 vajrin（ここでは呼格）よ．

3 成身加持分

53 妙観察智

Oṃ samādhi-padme hrīḥ.

・定 samādhi「三昧」「定」(sam-, ā-, +√dhā) なる蓮華 padmā（ここでは呼格）よ（試訳）．

54 五相成身観

1】通達菩提心

Oṃ citta-prativedhaṃ karomi.

心 citta に通達すること prati-vedha（ここでは対格）を我なす karomi.

2】修菩提心

Oṃ bodhi-cittam utpādayāmi.

菩提 bodhi の心 citta（ここでは対格）をわれ発起す ut-pādayāmi.

3】成金剛心

イ）心真言　Oṃ tiṣṭha vajra-padma.　起てよ tiṣṭha, 金剛蓮 vajra-padma よ.

ロ）廣真言　Oṃ sphara vajra.　周遍せよ sphara,　金剛よ.

ハ）斂真言　Oṃ saṃhara vajra.　収斂せよ saṃ-hara（＜√hṛ1), 金剛よ.

4】証金剛身

Oṃ vajra-padma-ātmako ’haṃ.

我 aham は金剛蓮 padma の我性 ātmaka なり.

5】仏身円満

Oṃ yathā sarva-tathāgatas tathā ahaṃ.

一切如来があるごとくに yathā,　その如くに tathā 我あるべし.

55 諸佛加持

Oṃ sarva-tathāgata-abhisambodhi-dṛḍha-vajra tiṣṭha.

一切如来の現等覚 abhi-sam-bodhi の堅固 dṛḍha（＜√dṛh）の金剛よ，起てよ tiṣṭha.

56 四佛加持

1】阿閦佛

Oṃ vajra-sattva adhiṣṭhāsva māṃ hūṃ.

金剛薩埵よ, 我を加持せよ adhi-ṣṭhāsva（為自相命令法 2 人称単数形).

2】宝生佛

Oṃ vajra-ratna adhiṣṭhāsva māṃ trāḥ.

金剛宝よ，我を加持せよ.

3】無量佛

Oṃ vajra-dharma adhiṣṭhāsva māṃ hrīḥ.

金剛法よ，我を加持せよ.

4】不空成就

Oṃ vajra-karma adhiṣṭhāsva māṃ aḥ.

金剛業よ，我を加持せよ.

57 五佛灌頂

1】遍照尊

Oṃ sarva-tathāgata-aiśvarya-abhiṣeka hūṃ.

一切如来の自在者 aiśvarya（＜īś）の灌頂 abhi-ṣeka（√sic）よ.

2】阿閦

Oṃ vajra-sattva abhiṣiñca māṃ hūṃ.

金剛薩埵よ，我を灌頂せよ abhi-ṣiñca.

3】宝生

Oṃ vajra-ratna abhiṣiñca māṃ trāḥ.

金剛宝よ，我を灌頂せよ.

4】無量寿

Oṃ vajra-padma abhiṣiñca māṃ hrīḥ.

金剛蓮よ，我を灌頂せよ.

5】不空成就

Oṃ vajra-karma abhiṣiñca māṃ aḥ.

金剛業よ，我を灌頂せよ.

58 四佛繋鬢

1】阿閦

Oṃ vajra-sattva-māla abhiṣiñca māṃ baṃ.

金剛薩埵の鬢 māla よ，我を灌頂せよ abhiṣiñca.

2】宝生

Oṃ vajra-ratna-māla abhiṣiñca māṃ baṃ.

金剛宝の鬢よ，我を灌頂せよ.

3】無量寿

Oṃ vajra-padma-māla abhiṣiñca māṃ baṃ.

金剛蓮の鬢よ，我を灌頂せよ.

4】不空成就

Oṃ vajra-karma-māla abhiṣiñca māṃ baṃ.

金剛業の鬢よ，我を灌頂せよ.

59 如来甲冑

Oṃ vajra-kavace vajra kuru vajra-vajro'haṃ.

金剛甲冑 kavaca（ここでは地格）における金剛となれ kuru，余は金剛中の金剛なり.

60 結冑

Oṃ vajra-tuṣya hoḥ.　金剛の歓喜 tuṣya（＜√tuṣ）よ.

61 現智身

Oṃ vajra-sattva aḥ.　金剛薩埵よ.

62 見智身

Oṃ vajra-sattva-dṛśya.　金剛薩埵を観見すること dṛśya（＜√dṛś）よ.

63 四明

Jaḥ hūṃ baṃ hoḥ.　鉤召し引入し縛住し令喜せしむ.

64 成仏

Oṃ samayo ’haṃ mahā-samayo ’haṃ.　我は三昧耶なり. 我は大三昧耶なり.

4 道場荘厳分

65 器界観

1 】大海

Oṃ vimala-udadhi hūṃ.

離垢 vi-mala の大海 udadhi（udadhī,　＜√ud）よ.

2 】金亀　Oṃ pra svāhā.

3 】宝山

Oṃ acala hūṃ.

宝山 a-cala（＜√cal）菩薩が仏陀になる前の 10 段階の一つ）よ.

66 曼荼羅総観　十八道参照.

67 大虚空蔵【虚空より楼閣等を流出】同上.

68 小金剛輪【四摂真言：鉤・索・鎖・鈴】　同上.

5 奉請結護分

69 啓請

Yābhyām nivic-chañśac cakra-siddhis yātam ubhe bale vajra-kuṇḍali-hetubhyām *tabhyām* astu sadā namaḥ.

啓請するに nivic-chañśa（栂尾師の解釈に従う；語基不明），yad（「彼」，関係代名詞で語基扱い，ここでは双数与格），輪壇 cakra の成就 siddhi すでに終われる yātam（＜√yā）をもってし，その協 ubhā（語基扱い）力 balī（＜√bal）が金剛二軍荼利 vajra-kuṇḍali に由来する hetu（「因」；ここでは双数奪格）がゆえに，彼ら二使者に tad（ここでは双数与格）常に sadā 帰命 namaḥ があらんことを astu（＜√as, 命令法 3 人称単数形）.

70 開門

Oṃ vajra-dvāra-udghāṭāya samaya-praveśāya hūṃ.

金剛の門戸 dvāra（< dvār, 語基扱い）を開くこと ud-ghāṭa（ここでは与格, < √ghaṭ）のために．三昧耶薩埵を遍入すること pra-veśa（ここでは与格, < √viś）のために.

71 啓請伽陀

Ayantu sarve bhuvana-eka-sārāḥ praṇamitāḥ śasa-kaṭhora-mārāḥ sākṣātkṛta-ananta-bhava-svabhāvāḥ. svayambhuva-ananta-bhava-svabhāvāḥ.

来たれ Ayantu（< √ay=i, 命令法 3 人称複数形），一切の sarva（ここでは複数主格）の諸有 bhuvana（< bhū）の中の唯一 eka 堅実者 sāra（語基扱い，ここでは複数主格）よ．諸々の礼敬せらるるもの pra-ṇamita（ここでは複数呼格，< √nam) よ，諸々の暴悪 kaṭhora の魔 māra(<√mṛ, ここでは複数主格）を折伏するもの śasa（< √śas）よ．無辺の ananta 有 bhava の自性 svabhāva（ここでは複数主格）を現証せるもの sa-akṣāt(<akṣa の奪格)-kṛta よ．自然生たる svayambhuva 無辺の ananta 有の bhava 自性者よ svabhāva（ここでは複数呼格）.

72 金剛王

Oṃ vajra samaja jaḥ. 金剛よ，集会 samaja（< sam + √i）せよ.

73 百八名讃

〈東〉

1】金剛薩埵

Vajra-sattva mahā-sattva vajra sarva-tathāgata samanta-bhadra vajrādya vajra-pāṇe namo ’stu te.

金剛薩埵よ, 大薩埵よ．金剛よ, 一切如来よ．普賢 samanta-bhadra よ, 金剛初 vajra-adya よ．金剛手 vajra-pāṇi（ここでは呼格）よ，汝に帰命あれ namo ’stu te.

2】金剛王

Vajra-rāja subuddhāgrya vajrāṅkuśa tathāgata amogha-rāja vajrāgrya vajrākarṣa namo ’stu te.

金剛王よ，妙覚最上 su-buddha-agrya（< agra）よ．金剛鉤 vajra-aṅkuśa よ，如来よ，不空王 amogha-rāja よ，金剛最上 vajra-agrya よ，金剛召 vajra-akarṣa よ，汝に帰命あれ.

3】金剛愛

Vajra-rāga mahā-saukhya vajra-vāṇa vaśaṃkara māra-kāma mahā-vajra vajra-cāpa namo ’stu te.

金剛染 rāga よ，大楽あるもの mahā-saukhya（＜ sukha）よ．金剛箭 vajra-vāṇa（＜√vaṇ）よ，能伏者 vaśaṃ（＜√vaś）-kara よ，魔欲 māra-kāma よ，大金剛 mahā-vajra よ，金剛弓 vajra-cāpa よ，汝に帰命あれ．

4】金剛喜

Vajra-sādho suvajrāgrya vajra-tuṣṭe mahā-rate pramodya-rāja vajrāgrya vajra-harṣa namo ’stu te.

金剛善哉 sādhu（ここでは与格，＜√sādh）よ，妙金剛勝 su-vajra-agrya よ．金剛歓喜 vajra-tuṣṭi（ここでは呼格）よ，大喜悦 mahā-rati（ここでは呼格，＜√ram）よ，歓喜 pra-modya（＜√mud）王よ，金剛首 vajra-agrya よ，金剛喜躍 vajra-harṣa（＜√har(y)）よ，汝に帰命あれ．

〈南〉

5】金剛宝

Vajra-ratna suvajrārtha vajrākāśa mahā-maṇe ākāśa-garbha vajrāḍhya vajra-garbha namo ’stu te.

金剛宝よ，妙金剛利 su-vajra-artha（＜√arth）よ．金剛虚空 vajra-ākāśa（＜ ā+kāś）よ，大宝珠 mahā-maṇi（ここでは呼格）よ，虚空 ākāśa 蔵 garbha（＜√grah）よ，金剛富饒 vajra-āḍhya（語基扱い）よ，金剛蔵 vajra-garbha よ，汝に帰命あれ．

6】金剛光

Vajra-teja mahā-jvala vajra-sūrya jina-prabha vajra-raśmi mahā-teja vajra-prabha namo ’stu te.

金剛威光 teja（＜√tij）よ，大炎 mahā-jvala よ．金剛日 vajra-sūrya（＜ svar）よ，仏光 jina（＜√ji）-prabha（＜√bhā）よ．金剛輝 vajra-raśmi（語基扱い）よ．大威光 mahā-teja よ，金剛光 vajra-prabha よ，汝に帰命あれ．

7】金剛幢

Vajra-ketu susattvārtha vajra-dhvaja sutoṣaka ratna-keto mahā-vajra vajra-yaṣṭe namo ’stu te.

金剛幢 ketu（＜√cit）よ，善く有情を利するもの su-sattva-artha よ，

金剛幡 vajra-dhvaja（＜√dhvaj）よ，妙歓喜あるもの su-toṣaka（＜√tuṣ）よ．宝幢 ratna-ketu（ここでは呼格）よ，大金剛 mahā-vajra よ，金剛杖 vajra-yaṣṭī（語基扱い，ここでは呼格）よ，汝に帰命あれ．

8】金剛笑

Vajra-hāsa mahā-hāsa vajra-smita mahāadbhūta prīti-pramodya vajra-ādya vajra-prīte namo ’stu te.

金剛笑 hāsa（＜√has）よ，大笑 mahā-hāsa よ，金剛微笑 vajra-smita（＜√smi）よ，大稀有 mahā-adbhūta（胎蔵 91【22】参照）よ，愛 prīti（＜√prī）喜 pra-modya（＜√mud）よ，金剛勝 ādya（「初」；語基扱い）よ，金剛愛 vajra-prīti（ここでは呼格）よ，汝に帰命あれ．

〈西〉

9】金剛法

Vajra-dharma susattvārtha vajra-padma suśodhaka lokeśvara suvajrākṣa vajra-netra namo ’stu te.

金剛法よ，善く su 有情 sattva を利するもの artha（＜√arth）よ，金剛蓮 vajra-padma よ，妙浄 su-śodhaka（＜√sudh）よ．世 loka（＜√lok）自在 īśvara よ．金剛妙眼 su-vajra-akṣa よ，金剛眼 vajra-netra（＜√nī）よ，汝に帰命あれ．

10】金剛利

Vajra-tīkṣṇa mahā-yāna vajra-kośa mahā-yudha mañjuśrīḥ vajra-gambhīrya vajra-buddhe namo ’stu te.

金剛利 tīkṣṇa（＜√tij）よ，大乗 mahā-yāna（＜√yā）よ，金剛蔵 kośa（語基扱い）よ，大 mahā 器仗 yudha（＜√yudh）よ，妙吉祥 mañjuśrī（「文殊」）よ，金剛 vajra 深 gambhīrya（＜√gabh=√jambh）よ，金剛慧 buddhi（＜√budh）よ，汝に帰命あれ．

11】金剛因

Vajra-heto mahā-maṇḍa vajra-cakra mahā-naya supravartana vajrottha vajra-maṇḍa namo ’stu te.

金剛因 hetu（ここでは呼格）よ，大道場 maṇḍa（＜√maṇḍ）よ，金剛輪 vajra-cakra（十八 28 参照）よ，大理趣 mahā-naya（＜√nī）よ，能く転ずるもの su-pra-vartana（＜√vṛt）よ，金剛起 vajra-uttha（＜ud-√sthā）よ，金剛場 vajra-maṇḍa よ，汝に帰命あれ．

12】金剛語

Vajra-bhāṣa suvidyāgrya vajra-jāpa susiddhi-da avāca-vajra siddhy-agrya vajra-bhāṣa namo ’stu te.

金剛説 bhāṣa（＜√bhāṣ）よ，妙明 su-vidyā の最上なるもの agrya よ，金剛念誦 vajra-jāpa（＜√jap）よ，妙悉地 su-siddhi を授くるもの da（＜√dā3）よ，無言 a-vāca（＜√vac）金剛よ，勝悉地 siddhi-agrya よ，金剛語よ vajra-bhāṣa，汝に帰命あれ.

〈北〉

13】金剛業

Vajra-karma suvajra-ājña karma-vajra su-sarva-ga vajrāmogha mahodārya vajra-viśva namo ’stu te.

金剛業 karma よ，妙金剛 su-vajra 教令 ājña（＜ ā+√jñā）よ，業金剛 karma-vajra よ，妙に一切に行くもの su-sarva-ga よ，金剛不空 vajra-amogha（＜√muh）よ，極広大 mahā-ud-ārya（＜√ṛ）よ，金剛巧 viśva（「全」；語基扱い）よ，汝に帰命あれ.

14】金剛護

Vajra-rakṣa mahā-vairya vajra-varma mahā-dṛḍha duryodhana suvīryāgrya vajra-vīrya namo ’stu te.

金剛護 rakṣa（35 を参照）よ，大勇あるもの vairya（＜ vīrya, √vīr）よ，金剛甲 varman（＜√vṛ）よ，大堅固 dṛḍha（＜√dṛh/dṛn̲h）よ，難敵 dus-yodhana（＜√yudh）よ，妙精進 su-vīrya-agrya よ，金剛勤 vajra-vīrya よ，汝に帰命あれ.

15】金剛牙

Vajra-yakṣa mahopāya vajra-dan̲ṣṭra mahā-bhaya māra-pramardi vajrogra vajra-caṇḍa namo ’stu te.

金剛盡 yakṣa（＜√yakṣ）よ，大方便 mahā-upāya（＜ upa+√i）よ，金剛牙 daṃṣṭra（＜√dan̲ś）よ，大怖 mahā-bhaya（＜√bhī）よ，摧魔 māra-pramardi （＜ pra+√mṛd）よ，金剛峻 vajra-agra よ，金剛憤 vajra-caṇḍa（＜√caṇḍ）よ，汝に帰命あれ.

16】金剛拳

Vajra-sandhi susāṃnidhya vajra-bandha pramocaka vajra-muṣṭya agra-samaya vajra-muṣṭe namo ’stu te.

金剛密合 sandhī よ，善き現験あるもの su-sāṃ-ni-dhya（宮坂版に従う，＜√dhyā）よ，金剛縛 vajra-bandha よ，能く解放するもの pra-mocaka

（<√muc）よ，金剛拳 vajra-muṣṭi（< √muṣ）よ，勝本誓 agra-samaya よ，金剛拳 vajra-muṣṭi よ，汝に帰命あれ．

74 四攝

1】鉤 Oṃ vajrāṅkuśa jaḥ. 金剛鉤 aṅkuśa よ．

2】索 Oṃ vajra-pāśa hūṃ. 金剛索 pāśa（< paś 10）よ．

3】鑠 Oṃ vajra-sphoṭa baṃ. 金剛摧破 sphoṭa（< √sphuṭ）よ．

4】鈴 Oṃ vajra-āveśa aḥ. 金剛遍入 ā-veśa（< √viś）よ．

75 金剛拍 十八道参照．

76 不動結（界）護（身）

不動明王慈救呪

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ caṇḍā-mahāroṣaṇa sphoṭaya hūṃ traṭ hāṃ māṃ.

普き samanta 諸金剛 vajra（ここでは複数属格）に帰命す．暴悪者 caṇḍā（√1 caṇḍ）よ，大忿怒者 mahāroṣaṇā（ここでは呼格< √1 ruṣ）よ，摧破せよ sphoṭaya（< √6 sphuṭ，使役活用命令法）．

77 金剛網【虚空網】 78 金剛炎【火院】 79 大三昧耶 十八道参照．

6 供養讃嘆分

80 閼伽【沐浴洗足】

百字明

Oṃ vajra-sattva samayam anupālaya vajra-sattvena upaṭiṣṭha dṛdho me bhava sutoṣyo me bhava anurakto me bhava supoṣyo me bhava sarva-siddhiṃ me prayaccha sarva-karmesu ca me citta-śriyaḥ kuru hūṃ ha ha ha ha ho bhagavan sarva-tathāgata-vajra mā me muñca vajrī bhava mahā-samaya sattva.

金剛薩埵よ，本誓に随い守護せよ anu-pālaya（< √pāl）．金剛薩埵 sattvena（ここでは具格）によりて供侍せられ upa-ṭiṣṭha（< √sthā），堅固性 dṛdha（< √dṛh/dṛṉh）が我がために aham（ここでは与格）あれ bhava（命令法 2 人称単数形）．妙歓喜 su-toṣya（< √tuṣ）が我がためにあれ．愛好すべきこと anu-rakta（< √rañj, raj）が我がためにあれ．増益 su-poṣya（< √puṣ）が我がためにあれ．一切の悉地 sarva-siddhi（ここでは単数対格）を我に授与せよ pra-yaccha（< √yam，命令法 2 人称単数形）．而して一切の事業 karma（ここでは地格）において，我がために，心の吉祥 śriyā（< śrī）が結果せよ kuru．世尊一切如来の金剛よ，我がために捨離

する muñca (＜√muc) 勿れ mā (語基扱い)．汝は金剛を有するものであれ．
大本誓の薩埵よ．．
閼伽真言　十八 43 参照．
81 蓮華座【座に請ず】　82 振鈴　—ここまで成身会．

83 羯磨会（以下，格形の表記も略すことがある）

1】羯磨	Oṃ vajra-karma kaṃ.	金剛の事業 karma よ．
〈五如来〉		
2】大日如来	Oṃ vajra-dhāto baṃ.	金剛界 dhātu よ．
3】阿閦如来	Oṃ akṣobhya hūṃ.	阿閦 akṣobhya よ．
4】宝生如来	Oṃ ratna-sambhava trāḥ.	宝生 ratna-sambhava よ．
5】無量寿如来	Oṃ lokeśvara-rāja hrīḥ.	世自在王 loka-īśvara-rāja よ．
6】不空成就如来	Oṃ amogha-siddhe aḥ.	不空成就 amogha-siddhi よ．
〈四波羅蜜〉		
7】金剛波羅蜜	Oṃ sattva-vajri hūṃ.	薩埵金剛妃 sattva-vajri よ．
8】宝波羅蜜	Oṃ ratna-vajri trāḥ.	宝金剛妃 ratna-vajri よ．
9】法波羅蜜	Oṃ dharma-vajri hrīḥ.	法金剛妃 dharma-vajri よ．
10】業波羅蜜	Oṃ karma-vajri aḥ.	業金剛妃 karma-vajri よ．
〈十六尊〉		
11】金剛薩埵	Oṃ vajra-sattva āḥ.	金剛薩埵 sattva よ．
12】金剛王	Oṃ vajra-rāja jaḥ.	金剛王 rāja よ．
13】金剛愛	Oṃ vajra-rāga hoḥ.	金剛愛 rāga よ．
14】金剛喜	Oṃ vajra-sādho saḥ.	金剛善哉 sādhu よ．
15】金剛宝	Oṃ vajra-ratna oṃ.	金剛宝 ratna よ．
16】金剛光	Oṃ vajra-teja aṃ.	金剛光 teja よ．
17】金剛幢	Oṃ vajra-keto trāṃ.	金剛幢ﾄｳ ketu よ．
18】金剛笑	Oṃ vajra-hāsa haḥ.	金剛笑 hāsa よ．
19】金剛法	Oṃ vajra-dharma hrīḥ.	金剛法 dharma よ．
20】金剛利	Oṃ vajra-tīkṣṇa dhaṃ.	金剛利 tīkṣṇa よ．
21】金剛因	Oṃ vajra-heto maṃ.	金剛因 hetu よ．
22】金剛語	Oṃ vajra-bhāṣa raṃ.	金剛語 bhāṣa よ．
23】金剛業	Oṃ vajra-karma kaṃ.	金剛業 karma よ．
24】金剛護	Oṃ vajra-rakṣa haṃ.	金剛護 rakṣa よ．

25】金剛牙 Oṃ vajra-yakṣa hūṃ. 金剛薬叉 yakṣa よ.
26】金剛拳 Oṃ vajra-sandhi baṃ. 金剛密合 sandhi よ.
〈内四供養〉
27】金剛嬉 Oṃ vajra-lāsye hoḥ. 金剛嬉女 lāsyā（＜√las）よ.
28】金剛鬘 Oṃ vajra-māle traṭ. 金剛鬘女 mālā よ.
29】金剛歌 Oṃ vajra-gīte gīḥ. 金剛歌女 gītā（＜√gai）よ.
30】金剛舞 Oṃ vajra-nṛtte kṛṭ. 金剛舞女 nṛttā（＜√nṛt）よ.
〈外四供養〉
31】金剛香 Oṃ vajra-dhūpe aḥ. 金剛焚香女 dhūpā（＜√dhū）よ.
32】金剛華 Oṃ vajra-puṣpe oṃ. 金剛華女 puṣpā（＜√puṣ）よ.
33】金剛燈 Oṃ vajra-āloke dīḥ. 金剛燈明女 ā-lokā よ.
34】金剛塗 Oṃ vajra-gandhe gaḥ. 金剛塗香女 gandhā よ.
〈四摂〉
35】金剛鉤 Oṃ vajra-aṅkuśa jaḥ. 金剛鉤 aṅkuśa よ.
36】金剛索 Oṃ vajra-pāśa hūṃ. 金剛索 pāśa よ.
37】金剛鑠 Oṃ vajra-sphoṭa baṃ. 金剛摧破 sphoṭa よ.
38】金剛鈴 Oṃ vajra-āveśa hoḥ. 金剛遍入 āveśa よ.

39】賢劫の十六大菩薩 Hūṃ×16.
40】二十天 Hūṃ×20.

84 三昧耶会
〈五仏〉
1】大日如来 Vajra-jñāna āḥ. 金剛智 jñāna よ.
2】阿閦佛 Vajra-jñāna hūṃ. 金剛智よ.
3】宝生佛 Vajra-jñāna trāḥ. 金剛智よ.
4】無量寿佛 Vajra-jñāna hrīḥ. 金剛智よ.
5】不空成就佛 Vajra-jñāna aḥ. 金剛智よ.
〈四波羅蜜〉
6】金剛波羅蜜 Vajra-śrīḥ hūṃ. 金剛吉祥妃 śrī よ.
7】宝波羅蜜 Vajra-gaurīḥ trāḥ.
諸々の金剛黄白色妃 gaurī（gaura で語基扱い）よ.
8】法波羅蜜 Vajra-tārāḥ hrīḥ.

金剛の多羅妃 tārā（ここでは複数，＜√tṛ）よ.

9】業波羅蜜　Kha-vajriṇu hoḥ.
虚空金剛妃 kha-vajriṇu よ.

〈十六尊〉

10】金剛薩埵　Samayas tvaṃ.
三昧耶こそ汝なり.

11】金剛王　Ānayasva.
汝は鉤召せよ ānayasva（＜ ā+√nī；為自相命令法 2 人称単数形）.

12】金剛愛　Aho sukha.
奇なるかな aha，安楽 sukha よ.

13】金剛喜　Sādhu sādhu.
善いかな sādhu，善いかな sādhu.

14】金剛宝　Su-mahā tvaṃ.
汝は極めて富めるものなり.

15】金剛光　Rūpa-dyota.
色 rūpa の光明あるもの dyota（＜√dyut）よ.

16】金剛幢　Artha-prāpti.
義理 artha を獲得すること pra-āpti（＜ pra+√āp）よ.

17】金剛笑　Ha ha ha he.【笑い声】

18】金剛法　Sarva-kāri.　一切を作成するもの sarva-kāri（＜√kṛ）よ.

19】金剛利　Duḥkha-ccheda.
苦 duḥkha（語基扱い）を断除するもの cheda（＜√chid）よ.

20】金剛因　Buddha-bodhi.　覚者 buddha の覚智 bodhi よ.

21】金剛語　Pratiśabda.　声に応ずるもの prati-śabda（＜√śabd）よ.

22】金剛業　Su-vaśi tvaṃ.　汝は妙自在者なり su-vaśi（＜√vaś）.

23】金剛護　Nirbhayas tvaṃ.　汝は無畏者なり nis-bhayas（＜√bhī）.

24】金剛牙　Śatru-bhakṣa.
敵を噉盡するもの śatru-bhakṣa（＜√bhakṣ）よ.

25】金剛拳　Sarva-siddhi.　一切の悉地 siddhi よ.

〈八供養〉

26】金剛嬉　Mahā-rati.　大適悦者 rati（＜√ram）よ.

27】金剛鬘　Rūpa-śobhe.　色 rūpa の端厳なるもの śobhā（＜ śubh）よ.

28】金剛歌 Śrotra-saukhye.
耳 śrotra（＜√śru）を楽しましむるもの saukhyā（＜ sukha）よ.
29】金剛舞 Sarva-pūje. 一切を供養するもの pūjā（＜√pūj）よ.
30】金剛香 Prahlādini.
極めて潤沢せしむるもの pra-hlādini（＜√hlād）よ.
31】金剛華 Phala-āgami.
果 phala（＜√phal）を生産するもの ā-gami（＜√gam）. よ.
32】金剛燈 Su-teja-agri. 勝上なる妙威光 su-teja-agri よ.
33】金剛塗 Su-gandha-aṇgi.
妙塗香の支分 su-gandha-aṇgi（＜ aṇga, 語基扱い）よ.
34】金剛鉤 Āyahi jaḥ. 汝来たれ ā-yahi（＜√yā）.
35】金剛索 Ahi hūṃ hūṃ. 蛇索よ.
36】金剛鏁 He sphoṭa baṃ. おお摧破するもの sphoṭa よ.
37】金剛鈴 Ghaṇṭa aḥ aḥ. 鈴 Ghaṇṭa（語基扱い）よ.

85 大供養会

1】大日如来
Oṃ sarva-tathāgata-vajra-dhātv-anuttara-pūja-spharaṇa-samaye hūṃ.
一切如来の金剛界 dhātu の無上の供養をもって遍覆する本誓 spharaṇa-samayā よ.
2】阿閦佛
Oṃ sarva-tathāgata-vajra-sattva-anuttara-pūja-spharaṇa-samaye hūṃ.
一切如来の金剛薩埵の無上の供養をもって遍覆する本誓よ.
3】宝生佛
Oṃ sarva-tathāgata-vajra-ratna-anuttara-pūja-spharaṇa-samaye hūṃ.
一切如来の金剛宝の無上の供養をもって遍覆する本誓よ.
4】無量寿佛
Oṃ sarva-tathāgata-vajra-dharma-anuttara-pūja-spharaṇa-samaye hūṃ.
一切如来の金剛法の無上の供養をもって遍覆する本誓よ.
5】不空成就佛
Oṃ sarva-tathāgata-vajra-karma-anuttara-pūja-spharaṇa-samaye hūṃ.
一切如来の金剛業の無上の供養をもって遍覆する本誓よ.
6】四波羅蜜 前の 4 佛の印言を用いる.

十六大供養契密語

東〉 7】金剛薩埵

Oṃ sarva-tathāgata-sarva-ātma-niryātana-pūja-spharaṇa-karma-vajri āḥ.

一切如来の一切に己が身 ātma を奉献 niryātana（胎蔵 20【6】【11】参照）する供養 pūja をもって遍覆する spharaṇa 事業 karma の金剛あるもの vajrī よ.

8】金剛王

Oṃ sarva-tathāgata-sarva-ātma-niryātana-pūja-spharaṇa-karma-agri jaḥ.

一切如来の一切に己が身を奉献する供養をもって遍覆する事業の勝上なるもの agrī よ.

9】金剛愛

Oṃ sarva-tathāgata-sarva-ātma-niryātana-pūja-spharaṇa-karma-vāṇe hūṃ hoḥ.

一切如来の一切に己が身を奉献する随染の供養をもって遍覆する事業の箭 vāṇī（73【3】参照）よ.

10】金剛喜

Oṃ sarva-tathāgata-sarva-ātma-niryātana-sādhukāra-pūja-spharaṇa-karma-tuṣṭi saḥ.

一切如来の一切に己が身を奉献する作善哉 sādhukāra（＜√sādh）供養をもって遍覆する事業の歓喜 tuṣṭi（＜√tuṣ）よ.

南〉 11】金剛宝

Oṃ namaḥ sarva-tathāgata-abhiṣeka-ratnebhyo vajra-maṇi oṃ.

帰命す，一切如来の灌頂 abhi-ṣeka（＜√sic）宝 ratna（ここでは複数与格）のために，金剛宝 maṇi よ.

12】金剛

Oṃ namaḥ sarva-tathāgata-sūryebhyo vajra-tejinī-jvala hiḥ.

帰命す，一切如来の諸々の日輪 sūrya（ここでは複数与格＜ svar）のために，金剛の光明 tejinī（＜√tij）-jvala よ.

13】金剛幢

Oṃ namaḥ sarva-tathāgata-āśā-paripūraṇa-cintāmaṇi-dhvaja-agrebhyo vajra-dhvaja-agri trāṃ.

帰命す，一切如来の意楽 āśā（＜ ā+√śaṇs）を円満する pari-pūraṇa

（＜√pī）如意 cintāmaṇi（＜√cint）宝幢 dhvaja （＜√dhvaj）の勝上なるもの（複数与格）のために，金剛幢 vajra-dhvaja の勝上なるもの agri よ．

14】金剛笑

Oṃ namaḥ sarva-tathāgata-mahā-prīti-pramodyakarebhyo vajra-hāse haḥ.

帰命す，一切如来の大愛 mahā-prīti 歓喜 pra-modya（＜√mud）をなすもの（複数与格）のために，金剛笑 vajra-hāsa よ．

西〉15】金剛法

Oṃ sarva-tathāgata-vajra-dharmatā-samādhibhiḥ stunomi mahā-dharma-agri hrīḥ.

一切如来の金剛法性 dharmatā の三摩地（複数具格）によりて我讃嘆す stunomi（＜√stu，本来第 2 類であるが，第 5 類風の接辞が加えられているものと思われる，1 人称単数形）．大法 mahā-dharma の勝上なるもの agri よ．

16】金剛利

Oṃ sarva-tathāgata-prajñā-pāramitābhiḥ nirhāre stunomi mahā-ghoṣa-anuge dhaṃ.

一切如来の般若波羅蜜（複数具格）により発生すること（地格，＜ nis+√hṛ）において我讃嘆す．大音声 mahā-ghoṣa（＜√ghuṣ）に随行するもの anu-gā よ．

17】金剛因

Oṃ sarva-tathāgata-cakra-akṣara-parivartana-sarva-sūtrānta-neyayā stunomi sarva-maṇḍale hūṃ.

一切如来の輪の字 cakra-akṣara（＜√akṣ）を転ずる pari-vartana（＜√vṛt）一切契経 sarva-sūtrānta（＜√sūtr）の理趣 neya（＜√nī, ここでは具格）によりて，我讃嘆す．一切の曼荼羅 sarva-maṇḍalā よ．

18】金剛語

Oṃ sarva-tathāgata-saṃdhābhāṣa-buddha-saṃgītibhir gadaṃ stunomi vajra-vāce caḥ.

一切如来の密 saṃ-dhā（＜√dhā）語 bhāṣa（＜√bhāṣ）たる佛 buddha の歌詠 saṃ-gīti（ここでは複数具格，＜√gai）を以てせる頌 gada（＜√gad）を我讃嘆す．金剛の語 vāc（＜√ vac）よ．

北〉19】金剛業

Oṃ sarva-tathāgata-dhūpa-megha-samudra-spharaṇa-pūja-karme kara karaḥ.
一切如来の焚香 dhūpa（＜√dhū）の雲 megha（＜√mih）海 sam-ud-ra（＜√ud）をもって遍覆する spharaṇa 供養 pūja の事業 karma よ.

20】金剛護
Oṃ sarva-tathāgata-puṣpa-prasara-spharaṇa-pūja-karme kiri kiriḥ.
一切如来の華 puṣpa（＜√puṣ）をもって舒遍し pra-sara（＜√sṛ）遍覆する供養の事業よ.

21】金剛牙
Oṃ sarva-tathāgata-āloka-jvala-spharaṇa-pūja-karme bhara bharaḥ.
一切如来の明 ā-loka （＜√lok）光 jvala（＜√jval）をもって遍覆する供養の事業よ.

22】金剛拳
Oṃ sarva-tathāgata-gandha-megha-samudra-spharaṇa-pūja-karme kuru kuruḥ.
一切如来の塗香 gandha（語基扱い）の雲海をもって遍覆する供養の事業よ.

十七雑供養

23】散華
Oṃ sarva-tathāgata-puṣpa-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.
一切如来の華 puṣpa の供養 pūja の雲海をもって遍覆する本誓 samayā よ.

24】焼香
Oṃ sarva-tathāgata-dhūpa-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.
一切如来の焼香 dhūpa の供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

25】燈明
Oṃ sarva-tathāgata-dīpa-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.
一切如来の燈 dīpa（＜√dīp）供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

26】塗香
Oṃ sarva-tathāgata-gandha-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.
一切如来の塗香 gandha 供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

27】宝類

Oṃ sarva-tathāgata-bodhy-aṇga-ratna-alaṃkāra-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の七覚 bodhi 支 aṇga の宝 ratna 荘厳 alam（語基扱い）具 kāra の供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

28】玩具

Oṃ sarva-tathāgata-hāsya-lāsya-krīḍa-rati-saukhya-anuttara-pūja-megha-samudra -spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の笑戯 hāsya(＜√has)，遊玩 lāsya(＜√las)，適 krīḍa(＜√krīḍ) 楽 rati（＜√ram）の具 saukhya（＜ sukha）の無上の anuttara 供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

29】宝樹

Oṃ sarva-tathāgata-vajropama-samādhi-bhāvana-āpana-bhojana-vasana-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の金剛喩 upama（語基扱い）定 samādhi（＜ sam-ā-√dhā）を修習すること bhāvana-āpana（＜√āp）によりて，飲食 bhojana（＜√bhoj)，衣服 vasana（＜√vas）の供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

30】承事

Oṃ sarva-tathāgata-kāya-niryātana-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来に自身 kāya（語基扱い）を奉献する nis-yātana（＜√yā）供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

31】観法

Oṃ sarva-tathāgata-citta-niryātana-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来に自心を奉献する供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

32】布施

Oṃ sarva-tathāgata-mahā-vajra-udbhava-dāna-pāramitā-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の大金剛より生ずる ud-bhava 施 dāna（＜√dā3）波羅蜜 pāramitā（＜ pāra-, -m-, √i）の供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

33】浄戒

Oṃ sarva-tathāgata-anuttara-mahābodhy-āhāraka-śīla-pāramitā-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の無上の大菩提 mahā-bodhi より得る所の ā-hāraka（＜√hṛ1）戒 śīla（＜√śīl）波羅蜜 pāramitā の供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

34】安忍

Oṃ sarva-tathāgata-anuttara-mahā-dharma-avabodha-kṣānti-pāramitā-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の無上の大法 mahā-dharma を覚悟せる ava-bodha 忍辱波羅蜜 kṣānti-pāramitā の供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

35】精進

Oṃ sarva-tathāgata-saṃsāra-aparityāga-anuttara-mahā-vīrya-pāramitā-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の生死 saṃsāra（「輪廻」）不捨 a-pari-tyāga（＜ tyaj）の無上の大精進 mahā-vīrya 波羅蜜 pāramitā の供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

36】禅那

Oṃ sarva-tathāgata-anuttara-mahā-saukhya-vihāra-dhyāna-pāramitā-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の無上の大楽 mahā-saukhya（＜ sukha 語基扱い）に住する vihāra（vi- ＜√hṛ1）静慮 dhyāna（＜√dhyai）波羅蜜の供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

37】智慧

Oṃ sarva-tathāgata anuttara-kleśa-jñeya-āvaraṇa-vāsanā-vinayana mahā-prajña-pāramitā pūja-megha-samudra spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の無上 anuttara にして，煩悩 kleśa（＜√kliś）と所知 jñeya（＜√jñā 動詞的形容詞）との障 ā-varaṇa（＜ ā+√vṛ）と習気 vāsanā（＜√vas1）とを調伏する vinayana（vi ＋√nī）大般若 mahā-prajña 波羅蜜の供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

38】解脱

Oṃ sarva-tathāgata-guhya-mahā-pratipatti-pūja-megha-samudra-spharaṇa-samaye hūṃ.

一切如来の秘密 guhya（＜√guh）の大修行 prati-patti（＜√pat）の供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

39】説法

Oṃ sarva-tathāgata-vākya-niryātana-pūja-megha-samudra-spharaṇa-

samaye hūṃ.
一切如来に語言 vākya（＜√vac）を奉献 niryātana する供養の雲海をもって遍覆する本誓よ.

86 四印会

1】金剛薩埵大印 Oṃ hṛdaya-manīṣitāni-sarva-tathāgatānāṃ sidhyantāṃ.
一切如来 sarva-tathāgata（ここでは複数属格）の心の諸々の楽欲 hṛdaya-manīṣita（中性，ここでは複数主格）を成就せよ sidhyantāṃ（＜√sidh4，為自相命令法 3 人称複数形）.

2】虚空蔵宝印 Sarva-mudrāṃ me priyā bhavatu.
一切如来の印 mudrā（語基扱い）を我がために愛護すること priyā（＜√prī）があれ bhavatu（為他相命令法 3 人称単数形）.

3】観自在法印
Niṣ-prapañca-vāk-siddhir bhavatu sarva-tathāgata-samādhayo me ājayantāṃ.
無 Nis 戯論 pra-pañca（＜√pac/pañc）の語言 vāc の悉地 siddhi があらんことを bhavatu，一切如来の諸々の三摩地 samādhi（ここでは複数主格）が我がために取得せられんことを ājayantāṃ（＜ā-√ji, 為自相命令法 3 人称複数形）.

4】虚空庫羯磨印
Avidyāṃ dhāvate me sattvāḥ sarva-tathāgatāṃś ca vidyā-adhigama-saṃvarāṃ saṃbhūtāṃ.
我がために彼は無明 a-vidyā を浄除す dhāvate（為自相 3 人称単数形）．而して諸々の有情が一切如来の明 vidyā を証得する adhi-gama（＜√gam）律 saṃvarā（＜ sam+√vṛ）儀 saṃ-bhūtā を生ぜんことを.

87 摩尼供養 88 事供 89 四智讃 90 普供養・三力 91 禮佛 十八道参照.

7 念誦修習分

92 佛眼

Namo bhagavat-uṣṇīṣa oṃ ru ru sphur-jvala-tiṣṭha-siddha-locane sarva-artha-sādhanīye svāhā.
帰命す，世尊の肉髻 uṣṇīṣa（＜√uṣ）よ，閃く光明 sphur-jvala に住する tiṣṭha 神聖なる眼 siddha-locana（ここでは地格）の一切の利益 artha

（< √arth）を成就すべきもの sādhanīyā（< √sādh）よ.

93 本尊羯磨加持 83【2】を参照.

94 入我我入観　95 正念誦　96 本尊羯磨加持　97 字輪観　98 本尊羯磨加持　99 仏母加持　100 散念誦　　十八道を適宜参照.

8 後供方便分

101 八供養印言　84【26】～【33】を参照.

102 六種事供　103 後鈴　104 神分祈願　105 四智讃　106 普供養三力　107 禮佛　108 廻向　109 解界　十八道を参照.

110 解三昧耶　Samaya muḥ.

111 解羯磨拳　Karma muḥ.×3

112 発遣　胎蔵部 113 を参照.

113 四佛加持　114 五佛灌頂　115 四佛繫鬢

116 寶印

Oṃ vajra-ratna abhiṣiñca māṃ sarva-mudra me dṛḍhī-kuru vara-kavacena vaṃ.

金剛宝よ, 我を灌頂せよ abhi-ṣiñca（< √sic, 為他相命令法 2 人称単数形）. 一切の印 mudrā よ，我がために堅固なれ dṛḍhī-kuru（為他相命令法 2 人称単数形）. 最勝の甲冑 kavaca（ここでは具格）によりて.

117 甲冑　118 結冑　119 舞儀拍掌

120 三部三昧耶（十八 9, 10, 11）　121 被甲護身（十八 12）　122 普礼（十八 2）

123 四礼　124 出道場　125 印佛塔，浴像，読経等

7. 護摩行法

以下の護摩・灌頂に関しては，もとより空海の時期に確立されていたわけではないと思われるが，現行で最詳の栂尾祥雲師による『秘密事相の研究』に，金剛界・胎蔵に続き載録されているため，ここでもこれに従う.

1　鍬の印言

Oṃ nikhana vasudhe svāhā.

掘り穿てよ ni-khana（< √khan），地よ vasudhā（< √vas6）.

2　加持泥の印言

Oṃ amṛta-udbhava hūṃ phaṭ svāhā.

甘露 a-mṛta（＜√mṛ）より発生せるもの ud-bhava よ.

3 加持漱口香水 Oṃ varada-vajra dhaṃ. 與願 varada 金剛 vajra よ.

4 請召火天の印言

Oṃ ehyehi mahābhūta deva-ṛṣi-dvija-sattama-agrya hitvā āhutim āhāram asmin sannihito bhava agnaye havya-kavya-vāhanāya svāhā.

来たれ来たれ ehyehi（＜ ihi, √i）大実在者 mahā-bhūta よ. 天 deva 仙 ṛṣi（＜√ṛṣ）にして再生族 dvi-ja（＜√jan）の最勝なるもの sattama（＜√as, sat の最上級） agrya よ. 飲食 āhuti（＜ ā+√hu；ここでは対格）供物 āhāram を納受して hitvā 此所に asmin（語基 ida の地格）止住すること sam-nihitā（＜ sam+√dhā）があれ bhava. 火天 agni（ここでは与格）に. 神の供物 havya（＜√hu の未来受動分詞）と祖先の供物 kavya（＜ kavi, √kū の未来受動分詞）を運ぶもの vāhana（＜√vah, ここでは与格）に.

5 火天の印言 Oṃ agnaye svāhā. 火天 agni（ここでは与格）のために.

6 扇火の印言 Oṃ bhūḥ jvala hūṃ. 光明 bhūḥ jvala よ.

7 十二天・七曜・二十八宿の真言

1】伊舎那天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ īśanāya svāhā.

普き諸佛に帰命す. 伊舎那天 īśana（＜√īś）のために.

2】帝釈天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ indrāya svāhā. 帝釈天 indra のために.

3】火天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ agnaye svāhā. 火天 agni のために.

4】閻魔天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ yamāya svāhā. 閻魔天 yama のために.

5】羅刹天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ nirṛtye svāhā. 羅刹天 nirṛti のために.

6】水天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ varuṇāya svāhā.

水天 varuṇa（＜√vṛ5）のために.

7】風天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ vāyave svāhā.

風天 vāyu（＜√vā2）のために.

8】毘沙門天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ vaiśravaṇāya svāhā.

毘沙門天 vaiśravaṇa のために.

9】梵天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ brahmaṇe svāhā.

梵天 brahmaṇ（ここでは与格）のために.

10】地天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ pṛthiviye svāhā.

地天 pṛthivi（＜√prath）のために.

11】日天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ādityāya svāhā.　日天 āditya のために.

12】月天

Namaḥ samanta-buddhānāṃ candrāya svāhā.

月天 candra（＜√cand）のために.

13】七曜の真言

Namaḥ samanta-buddhānāṃ graheśvarya-prāpta jyotir-maya svāhā.

曜宿 graha（ここでは地格）の自在 īśvarya（＜√īś）を得たるもの pra-āpta（＜√āp）よ，光明 jyotis（＜√dyut）より成立せるもの maya（＜√mā2）よ.

14】二十八宿の真言

Namaḥ samanta-buddhānāṃ nakṣatra-nirnādaniye svāhā.

星宿 nakṣatra（＜√nakṣ）の声なきもの nis-nādanī（＜√nad；ここでは与格）に.

8. 灌頂行法

「四度加行」に続き，以下，灌頂についても，護摩の場合と同じく，簡便ではあるが，栂尾師の解釈に従う.

1 入秘密曼荼羅

Oṃ vajra-maṇḍalaṃ praveśāmi.

金剛曼荼羅 maṇḍala（＜√maṇḍ）に余は入るべし pra-veśāmi.

2 授金剛線【護持弟子真言】

Oṃ mahā-vajra-kavaca vajrim kuru vajra-vajra hāṃ.

大金剛の甲冑 kavaca (＜√kū) よ, 金剛 vajri をなせ kuru. 金剛中の金剛よ.

3 塗香 Oṃ vajra-gandhe gaḥ. 金剛の塗香 gandhā よ.

4 華鬘 Oṃ vajra-puṣpe oṃ. 金剛の華 puṣpā よ.

5 焼香 Oṃ vajra-dhūpe aḥ. 金剛の焼香 dhūpā（＜√dhū）よ.

6 灯明 Oṃ vajra-āloka dīḥ. 金剛の光明 ā-loka（＜√lok）よ.

7 歯木作法【如来微笑】 Oṃ vajra-hāsa ha. 如来笑 hāsa（＜√has）よ.

8 誓水【金剛水】 Oṃ vajra-udaka ṭha. 金剛水 udaka（＜ ud）よ.

9 投花 Oṃ pratīccha vajra ho. 納受せよ prati-iccha（＜√iṣ6), おお金剛よ.

10 受者を護念【加持護念】

Oṃ tiṣṭha vajra dṛdho me bhava śāśvato me bhava hṛdayaṃ me adhitiṣṭha sarva-siddhiṃ ca me prayaccha hūṃ ha ha ha ha hoḥ.

住せよ tiṣṭha, 金剛よ. 堅固 dṛdha（＜√dṛh/dṛṉh）が我ために（与格）あれ. 永恒 śāśvata（＜ sa+√śvi） が我ためにあれ. 心 hṛdaya（＜ hṛd）を我ために加持せよ adhi-tiṣṭha. 而して一切の悉地 sarva-siddhi を我ために授与せよ pra-yaccha（＜ yam).

11 覆面を解く

Oṃ vajra-sattvaḥ svayaṃ te adya cakṣu-udghaṭṭanaḥ tad-paraṃ udghaṭṭayati sarva-akṣa-vajra-cakṣur-anuttaraṃ.

金剛薩埵は自ら svayam（＜ sva, 副詞）汝のために te 今や adya（語基扱い）眼 cakṣu（＜√cakṣ）を開くものなり ud-ghaṭṭana（＜√ghaṭ). 彼はもっぱら paraṃ（＜ para；後置副詞的に「～のみ」）一切の眼たる akṣa（＜ akṣi）無上の an-uttara 金剛眼 cakṣus（＜√cakṣ）を開くべし ud-ghaṭṭayati（＜√ghaṭ；使役活用 3 人称単数形).

12 摂受弟子

Oṃ pratigṛhṇā tvam imaṃ sattva-mahābala.

汝 tvam は彼 idam（ここでは対格）を摂受せよ prati-gṛhṇā（＜√grah；命令法 2 人称単数形). 大力 mahā-bala（＜√bal）の薩埵よ.

13 授五股（金剛）杵

Oṃ vajra-adhipatibhis tvāṃ abhiṣiñcāmi tiṣṭha vajra samayas tvaṃ.

諸々の金剛尊主 adhi-pati（ここでは複数具格）によりて, 汝 tvam（ここでは対格）を我灌頂す abhi-ṣiñcāmi（＜√sic). 起てよ tiṣṭha 金剛よ. 汝は三摩耶なり samayas tvaṃ.

14 金剛名号

Oṃ vajra-sattvam aham abhiṣiñcāmi vajra-nāma-abhiṣekataḥ hye vajra-nāma.
我 aham は金剛薩埵（対格）に灌頂す abhi-ṣiñcāmi．金剛名 vajra-nāma の灌頂より abhi-ṣekata（＜√sic），おお金剛名 vajra-nāma の某甲よ．

15 授五股杵（決定要誓）誓言

Oṃ sarva-tathāgata-siddhi-vajra-samaya tiṣṭha eṣa tvaṃ agaṃ dhārayāmi vajra-sattva hi hi hi hi hūṃ.
一切如来の悉地なる sarva-tathāgata-siddhi 金剛の要誓 vajra-samaya よ．汝は此処に eṣa（＜ etad，単数主格形「是なる者として」）住せよ tiṣṭha．我護持すべし dhārayāmi（＜√dhṛ）．金剛薩埵よ．

16 吉慶梵語

1) *Yat* maṅgalaṃ tuṣita-deva-vimāna-garbhād āsīd ihā ’vatārato jagato hitāya saindraiḥ surair anugatasya tathāgatasya *tad* maṅgalaṃ bhavatu śāntikaraṃ tava adya.
吉祥 maṅgala（語基扱い）がありし如く yat（～ tat），都史多 tuṣita（＜√tuṣ）天 deva の宮殿 vi-māna（＜√mā）の胎蔵 garbha（ここでは奪格）より，世間 jagat（＜√gam，畳音）の利益 hita（＜√dhā，ここでは与格）のために，この世に ihā（語基扱い）化現 ava-tārata（＜√tṝ）がありし時 āsīt（＜√as，未完了過去 3 人称単数形），如来の随衛 anu-gata（ここでは属格）である帝釈 sa-indra（ここでは複数具格）・倶なる諸天とともに sura（同），その吉祥 tad maṅgalam の勝妙 śānti（「寂」＜√śam 4/9）なるもの kara が，いまや adya 汝のうえに tvam（ここでは属格）あれ bhavatu.

2) *Yat* maṅgalaṃ kapilavastuni rāja-dhānyāṃ garbhād viniḥsritavataḥ snapitasya devaiḥ śauddhodaner amṛta-varibhir āśuvṛddhyai *tad* maṅgalaṃ bhavatu śāntikaraṃ tava adya.
吉祥がありし如く，迦比羅伐卒覩の kapilavastuni 王城 rāja-dhānā（ここでは地格）において，胎内より garbhāt（＜ garbha の奪格）降誕し vi-nis-sritavata（＜√sṛ，過受分），諸天 deva（ここでは複数具格）によりて灌沐せられたり snapita（＜√snā）．浄飯王の太子 śauddhodani（ここでは属格，＜ śuddhodana）の速やかなる成長 āśu-vṛddhā（ここでは与格）のために，甘露水をもってせり amṛta-vari（ここでは複数具格，＜√vṛ 語根名詞か）．その吉祥の勝妙なるものがいまや汝のうえにあれ．

3) *Yat* maṅgalaṃ sakala-doṣā-vināśa-hetor vajr’āsane sthitavataḥ

pravaraṃ babhūva māraṃ vijitya catur-api niśā-avasāne *tad* maṅgalaṃ bhavatu śānti-karaṃ tava adya.

吉祥がありし如く，一切の sakala（＜ sa+kalā）罪過 doṣā（＜ √duṣ）を除滅 vināśa（＜ vi+√naś4）せんがために hetu（ここでは奪格），金剛座 vajr'āsa（＜ √ās）に住せしとき sthitavata（＜ √sthā）最上のもの pravara（＜ pra+√vṛ）ありき babhūva（bhū の完了３人称単数形）. 四度も catur-api（語基扱い）魔 māra（ここでは対格）を降伏して vi-jitya（＜ √ji, 絶対分詞形）迷夢 niśā（＜ niś，語基扱い）を破りしことにおいて avasāna（ここでは地格，＜ ava-√so），その吉祥の勝妙なるものがいまや汝のうえにあれ.

17 四波羅蜜讃【栂尾版では 21，19 － 20 ＋南北の順】

Sattva-vajra namo 'stu te sattve vajri namo 'stu te.

薩埵の金剛よ，汝に帰命あれ．薩埵の金剛妃よ，汝に帰命あれ.

Ratna-vajra namo 'stu te ratne vajri namo 'stu te.

宝金剛よ，汝に帰命あれ．宝金剛妃よ，汝に帰命あれ.

Dharma-vajra namo 'stu te dharme vajri namo 'stu te.

法金剛よ，汝に帰命あれ．法金剛妃よ，汝に帰命あれ.

Karma-vajra namo 'stu te karme vajri namo 'stu te.

業金剛よ，汝に帰命あれ．業金剛妃よ，汝に帰命あれ.

18 四方讃【東方　南方　西方　北方】

（19 不動梵語讃）

9. 結びにかえて

では，以上第１部の末尾に，小考を付して結論としたい.

本稿で示したように, 空海の請来に発する四度加行および灌頂のテキストは, 印欧語の一つとしてのサンスクリット語彙を豊かに内包する文献である．その語彙には，当然のことながら西洋古典語としてのギリシア語・ラテン語に関連を有するものが数多く見られる．その内実については，以下本稿の第２部を参照されたい．このうち特にラテン語を通じて，現代英語にまでその射程が及ぶことについては，本稿冒頭に述べたところである．また文法事項としては，為他・為自相の双方にわたる動詞活用形が見られるほか，命令法，使役活用，双数が頻出する点，などにおいて，充分にサンスクリット文法の細部にまで及ん

でいる．サンスクリット文法は，ギリシア語やラテン語に比して，複文の立体的な構造を発達させるよりもむしろ，主として体言（名詞類）の格変化をもって文意を表現する傾向にある．その際に名詞類を，語要素レベル・語彙レベル双方にわたり，連続して接続させる表現様式を採る．ここから「六合釈」など，現代印欧語にまで通じうる語構成論を空海が展開したことについては，夙に知られるところである（「六合釈」については，第 1 節に前掲した拙著『ハンガリーのギリシア・カトリック教会』579 — 580 頁を参照）．その過程で，多彩な体言変化を呈する名詞類が多く現れ，この意味でも「四度加行」以下のテキストは大変有益であると言える．

また，本稿のなかには注記し得なかったが，とくに関連語彙のうちギリシア語のものについては，そのほとんどが詩人ホメロスによる二大叙事詩，すなわち『イリアス』『オデュッセイア』に用例を求めうるものばかりである．ギリシア神話の素地を欠くわが国の西洋古典学方法論としては，ホメロスへの固有のアプローチが困難であると言えるが，インド古典語に顧慮した純粋に語源学的な視座は，極めて有効かもしれない（先駆者として改めて，印欧語比較言語学者にして西洋古典学者であった高津春繁の名が想起される）．この面での研鑽は，また稿を改めての試みとなるであろう．

※本稿の第 2 部は「梵語語基表と呉音読み漢字索引」と題して，『文藝言語研究　文藝編』第 61 巻に掲載されている．